

20034391-01
VS

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 Date of Application: 2002年 9月17日

出願番号 Application Number: 特願2002-270650

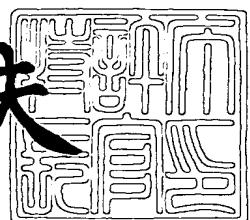
[ST. 10/C]: [JP2002-270650]

出願人 Applicant(s): ブラザー工業株式会社

2003年 7月29日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



57RJ16

出証番号 出証特2003-3060124

【書類名】 特許願
【整理番号】 2002048500
【提出日】 平成14年 9月17日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 G06F 1/16
G06F 9/00
【発明の名称】 折畳可能なディスプレイ及びキーボードを備えた入力装置並びにその入力装置を備えたパーソナルコンピュータ
【請求項の数】 11
【発明者】
【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー工業株式会社内
【氏名】 望月 熊
【発明者】
【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー工業株式会社内
【氏名】 高木 猛行
【特許出願人】
【識別番号】 000005267
【氏名又は名称】 ブラザー工業株式会社
【代理人】
【識別番号】 100098431
【弁理士】
【氏名又は名称】 山中 郁生
【連絡先】 052-218-7161
【選任した代理人】
【識別番号】 100097009
【弁理士】
【氏名又は名称】 富澤 孝

【選任した代理人】**【識別番号】** 100105751**【弁理士】****【氏名又は名称】** 岡戸 昭佳**【選任した代理人】****【識別番号】** 100109195**【弁理士】****【氏名又は名称】** 武藤 勝典**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 041999**【納付金額】** 21,000円**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1**【物件名】** 図面 1**【物件名】** 要約書 1**【包括委任状番号】** 9506366**【包括委任状番号】** 0018483**【プルーフの要否】** 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 折畳可能なディスプレイ及びキーボードを備えた入力装置並びにその入力装置を備えたパーソナルコンピュータ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとの間に回動連結部を設け、キーボードの使用時には回動連結部を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動連結部を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードと、

前記第1又は第2キーボードユニットの一側に回動可能に取り付けられた可撓性の折畳可能なフレキシブルディスプレイとを備え、

前記フレキシブルディスプレイは、その折り畳まれた状態から、前記第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されることを特徴とする入力装置。

【請求項 2】 前記フレキシブルディスプレイは、前記回動連結部の軸方向と直交する方向に沿って前記第1キーボードユニット又は第2キーボードユニットの一側に取り付けられていることを特徴とする請求項1に記載の入力装置。

【請求項 3】 前記キーボードは第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際に第1長さを有し、

前記フレキシブルディスプレイは、前記第1長さに略等しい長さの表示部を有するとともに、その可撓性に基づき前記回動連結部に対応して、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際ににおけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の入力装置。

【請求項 4】 前記フレキシブルディスプレイは、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するよう、折り畳まれることを特徴とする請求項1乃至請求項3のいずれかに記載の入力装置。

【請求項 5】 前記第1又は第2キーボードユニットには、キーボード及びフ

レキシブルディスプレイを制御する制御部本体が付設されるとともに、フレキシブルディスプレイは制御部本体の一側に回動可能に取り付けられており、

前記フレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットの幅と前記制御部本体の幅とを加えた幅を有することを特徴とする請求項1乃至請求項4のいずれかに記載の入力装置。

【請求項6】 前記フレキシブルディスプレイは、有機ELディスプレイから構成されていることを特徴とする請求項1乃至請求項5のいずれかに記載の入力装置。

【請求項7】 第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとの間に回動連結部を設け、キーボードの使用時には回動連結部を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動連結部を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードと、

前記第1又は第2キーボードユニットに付設されたコンピュータ本体と、

前記コンピュータ本体の一側に回動可能に取り付けられ可撓性の折畳可能なフレキシブルディスプレイとを備えたパーソナルコンピュータであって、

前記フレキシブルディスプレイは、その折り畳まれた状態から、前記第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されることを特徴とするパーソナルコンピュータ。

【請求項8】 前記キーボードは第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際に第1長さを有し、

前記フレキシブルディスプレイは、前記第1長さに略等しい長さの表示部を有するとともに、その可撓性に基づき前記回動連結部に対応して、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際ににおけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれることを特徴とする請求項7に記載のパーソナルコンピュータ。

【請求項9】 前記フレキシブルディスプレイは、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれることを特徴とする請求項7又は請求項8に記載のパーソナルコン

ピュータ。

【請求項 10】 前記フレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットの幅と前記コンピュータ本体の幅とを加えた幅を有することを特徴とする請求項7乃至請求項9のいずれかに記載のパーソナルコンピュータ。

【請求項 11】 第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとの間に回動連結部を設け、キーボードの使用時には回動連結部を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動連結部を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードと、

前記第1又は第2キーボードユニットの一側に回動可能に取り付けられた可撓性の折畳可能なフレキシブルディスプレイとを備え、

前記キーボードは第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際に第1長さを有し、

前記フレキシブルディスプレイは、前記第1長さに略等しい長さの表示部を有するとともに、その可撓性に基づき前記回動連結部に対応して、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際におけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれることを特徴とする入力装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯性に優れるとともに操作時には良好な操作性を有する折畳可能なキーボードを備えた入力装置及びその入力装置を備えたパーソナルコンピュータに関し、特に、入力装置やパーソナルコンピュータに付設されるディスプレイをキーボードの折畳状態に対応して折り畳み可能とすることにより、携帯時にはディスプレイを備えた入力装置やパーソナルコンピュータの携帯性を格段に向上することが可能であるとともに、使用時にはデスクトップ型の入力装置やパーソナルコンピュータと同等の良好な操作性を実現することが可能な入力装置及びパーソナルコンピュータに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来より、キーボード等の入力操作部とディスプレイとを備え、キーボードやディスプレイを折畳可能に構成した各種の携帯型電子機器が提案されている。

【0003】

例えば、特開平10-293624号公報には、表示部が設けられた第一の部分と入力操作部を構成する第二の部分とを連接部を介して回動自在に連結し、また、第二の部分を、主部と、主部の両側で2つの連接部を介して折り畳み可能に連結された2つの副主部とから構成した携帯型電子機器が記載されている。

【0004】

かかる携帯型電子機器では、その使用時に主部及び2つの副主部を水平状態に配置することにより入力部部を広くすることができ、また、非使用時には、2つの連接部を介して2つの副主部を主部に重なるように折り畳むことにより携帯性を向上することができるものである。

【0005】

また、再公表特許WO99/34348号公報には、携帯電子機器の本体と蓋とを蝶番等の連結手段を介して開閉自在に連結するとともに、一部にタッチ入力操作部が設けられた一枚のフレキシブル液晶表示板を本体と蓋の両者に掛け渡すように固定した携帯電子機器が記載されている。

【0006】

かかる携帯電子機器では、その使用時フレキシブル液晶表示板に設けられたタッチ入力操作部を介して所望の入力操作が行われ、また、その非使用時には、蓋を閉じるとフレキシブル液晶表示板の折曲部が、大きな曲率を確保しつつ、連結手段の近傍にて本体と蓋とに渡って形成された逃げ溝部に進入されるので、フレキシブル液晶表示板の折曲に起因する損傷・劣化を防止することができるものである。

【0007】**【特許文献1】**

特開平10-293624号公報（第2頁、図1乃至図3）

【特許文献2】

再公表特許WO99/34348号公報（第9頁、第1図乃至第3図）

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記特開平10-293624号公報に記載された携帯型電子機器では、入力操作部において2つの副主部は、連接部を介して主部に重なるように折り畳み可能に構成されているものの、表示部が設けられた第一の部分は、それ自体折畠可能には構成されてはおらず、従って、携帯型電子機器のサイズは、第一の部分のサイズに制限されてしまうこととなる。このように、携帯型電子機器の携帯性を更に向上して、電子機器全体のコンパクト化を図るには、まだまだ不十分なものである。

【0009】

また、前記再公表特許WO99/34348号公報に記載された携帯電子機器では、タッチ入力操作部と表示部とを一枚のフレキシブル液晶表示板で構成するとともに、かかるフレキシブル液晶表示板を本体と蓋とに渡って固定し、非使用時に蓋を閉じた際にフレキシブル液晶表示板を折曲させるものではあるが、タッチ入力操作部自体はフラットに形成されているのが一般的であることから、複数のキーを配列してなるキーボード等と比較して非常に操作性が悪いものである。また、タッチ入力操作部自体は折畠可能に構成されてはおらず、従って、タッチ入力操作部のサイズはフレキシブル液晶表示板のサイズによる制約を受けてしまうことから、前記の場合と同様、携帯電子機器の携帯性を更に向上して、電子機器全体のコンパクト化を図るには、まだまだ不十分なものである。

【0010】

本発明は前記従来技術の問題点を解消するためになされたものであり、キーボード及びディスプレイの双方を折畠可能に構成し、ディスプレイをキーボードの折畠状態に対応して折り畠み可能とすることにより、携帯時にはディスプレイを備えた入力装置やパーソナルコンピュータの携帯性を格段に向上することが可能であるとともに、使用時にはデスクトップ型の入力装置やパーソナルコンピュータと同等の良好な操作性を実現することが可能な入力装置及びパーソナルコンピュータを提供することを目的とする。

【0011】**【課題を解決するための手段】**

前記目的を達成するため請求項1に係る入力装置は、第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとの間に回動連結部を設け、キーボードの使用時には回動連結部を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動連結部を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードと、前記第1又は第2キーボードユニットの一側に回動可能に取り付けられた可撓性の折畳可能なフレキシブルディスプレイとを備え、前記フレキシブルディスプレイは、その折り畳まれた状態から、前記第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されることを特徴とする。

【0012】

請求項1に係る入力装置では、フレキシブルディスプレイが、その折り畳まれた状態から、第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されるので、フレキシブルディスプレイにおける表示部は、操作可能な状態にあるキーボードの長手方向と平行な方向に配置されることとなり、従って、キーボードの操作中にフレキシブルディスプレイが見易くなり、キー操作性が向上する。

【0013】

ここに、フレキシブルディスプレイは、請求項2に記載されているように、回動連結部の軸方向と直交する方向に沿って前記第1キーボードユニット又は第2キーボードユニットの一側に取り付けられていることが望ましい。

【0014】

また、請求項3に係る入力装置は、請求項1又は請求項2の入力装置において、前記キーボードは第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際に第1長さを有し、前記フレキシブルディスプレイは、前記第1長さに略等しい長さの表示部を有するとともに、その可撓性に基づき前記回動連結部に対応して、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際におけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれることを特徴とする。請求項3に係る入力装

置では、可撓性のフレキシブルディスプレイは、キーボードの使用時に第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際ににおけるキーボードの第1長さに略等しい長さの表示部を有しており、また、キーボードの非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際ににおけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれるので、キーボードの使用時には、フレキシブルディスプレイの表示部は、その表示面積が広くなつて見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受けることがなく、また、キーボードにおける第1及び第2キーボードユニットは、折り畳まれた状態から水平状態に開放されてその操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。更に、キーボードを使用しない携帯時には、フレキシブルディスプレイは、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされるように折り畳まれたキーボードの長さと同等の長さに折り畳まれることから、キーボードの折畳状態に対応して折り畳むことが可能となり、従つて、携帯時には入力装置全体の携帯性を格段に向上することが可能となる。

【0015】

また、請求項4に係る入力装置は、請求項1乃至請求項3のいずれかの入力装置において、前記フレキシブルディスプレイは、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれることを特徴とする。請求項4に係る入力装置では、フレキシブルディスプレイが、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれるので、第1及び第2キーボードユニットの回動連結部に対応して湾曲するフレキシブルディスプレイの湾曲部の曲率を大きくすることができ、この結果、湾曲部に曲がり癖が発生することを確実に防止することができ、長期に渡つてフレキシブルディスプレイの平面性を保持することができる。

【0016】

更に、請求項5に係る入力装置は、請求項1乃至請求項4のいずれかの入力装置において、前記第1又は第2キーボードユニットには、キーボード及びフレキシブルディスプレイを制御する制御部本体が付設されるとともに、フレキシブル

ディスプレイは制御部本体の一側に回動可能に取り付けられており、前記フレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットの幅と前記制御部本体の幅とを加えた幅を有することを特徴とする。請求項5に係る入力装置では、フレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットに付設された制御部本体の一側に回動可能に取り付けられるとともに、第1又は第2キーボードユニットの幅と制御部本体の幅とを加えた幅を有するので、折り畳まれた状態でフレキシブルディスプレイは、キーボードユニットと制御部本体とを合わせたサイズと同等のサイズを有することとなり、従って、キーボードとフレキシブルディスプレイとを折り畠んだ状態で両者の間でずれが発生することなく一体感を実現しつつにコンパクト化を図ることができる。

【0017】

ここに、フレキシブルディスプレイとしては、請求項6に記載されているように、有機ELディスプレイから構成されていることが望ましい。

【0018】

また、請求項7に係るパーソナルコンピュータは、第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとの間に回動連結部を設け、キーボードの使用時には回動連結部を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動連結部を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畠可能なキーボードと、前記第1又は第2キーボードユニットに付設されたコンピュータ本体と、前記コンピュータ本体の一側に回動可能に取り付けられ可撓性の折畠可能なフレキシブルディスプレイとを備えたパーソナルコンピュータであって、前記フレキシブルディスプレイは、その折り畠まれた状態から、前記第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されることを特徴とする。

【0019】

請求項6に係るパーソナルコンピュータでは、コンピュータ本体の一側に回動可能に取り付けられた可撓性のフレキシブルディスプレイは、その折り畠まれた状態から、第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されるので、フレキシブルディスプレイにおける表示

部は、操作可能な状態にあるキーボードの長手方向と平行な方向に配置されるととなり、従って、キーボードの操作中にフレキシブルディスプレイが見易くなり、キー操作性が向上する。

【0020】

また、請求項8に係るパーソナルコンピュータは、請求項7のパーソナルコンピュータにおいて、前記キーボードは第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際に第1長さを有し、前記フレキシブルディスプレイは、前記第1長さに略等しい長さの表示部を有するとともに、その可撓性に基づき前記回動連結部に対応して、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際ににおけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれることを特徴とする。請求項8のパーソナルコンピュータでは、可撓性のフレキシブルディスプレイは、キーボードの使用時に第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際ににおけるキーボードの第1長さに略等しい長さの表示部を有しており、また、キーボードの非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際ににおけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれるので、キーボードの使用時には、フレキシブルディスプレイの表示部は、その表示面積が広くなつて見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受けることがなく、また、キーボードにおける第1及び第2キーボードユニットは、折り畳まれた状態から水平状態に開放されてその操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。更に、キーボードの使用しない携帯時には、フレキシブルディスプレイは、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされるように折り畳まれたキーボードの長さと同等の長さに折り畳まれることから、キーボードの折畳状態に対応して折り畳むことが可能となり、従って、携帯時には入力装置全体の携帯性を格段に向上することが可能となる。

【0021】

更に、請求項9に係るパーソナルコンピュータは、請求項7又は請求項8に係るパーソナルコンピュータにおいて、前記フレキシブルディスプレイは、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれることを特徴とする。請求項9に係るパーソナ

ルコンピュータでは、フレキシブルディスプレイが、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれるので、第1及び第2キーボードユニットの回動連結部に対応して湾曲するフレキシブルディスプレイの湾曲部の曲率を大きくすることができ、この結果、湾曲部に曲がり癖が発生することを確実に防止することができ、長期に渡ってフレキシブルディスプレイの平面性を保持することができる。

【0022】

また、請求項10に係るパーソナルコンピュータは、請求項7乃至請求項9のいずれかのパーソナルコンピュータにおいて、前記フレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットの幅と前記コンピュータ本体の幅とを加えた幅を有することを特徴とする。請求項10に係るパーソナルコンピュータでは、コンピュータ本体の一側に回動可能に取り付けられたフレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットの幅とコンピュータ本体の幅とを加えた幅を有するので、折り畳まれた状態でフレキシブルディスプレイは、キーボードユニットとコンピュータ本体とを合わせたサイズと同等のサイズを有することとなり、従って、キーボードとフレキシブルディスプレイとを折り畳んだ状態で両者の間ですれが発生することなく一体感を実現しつつにコンパクト化を図ることができる。

【0023】

更に、請求項11に係る入力装置は、第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとの間に回動連結部を設け、キーボードの使用時には回動連結部を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動連結部を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードと、前記第1又は第2キーボードユニットの一側に回動可能に取り付けられた可撓性の折畳可能なフレキシブルディスプレイとを備え、前記キーボードは第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際に第1長さを有し、前記フレキシブルディスプレイは、前記第1長さに略等しい長さの表示部を有するとともに、その可撓性に基づき前記回動連結部に対応して、前記第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際における

るキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれることを特徴とする。

【0024】

請求項11の入力装置では、可撓性のフレキシブルディスプレイは、キーボードの使用時に第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際におけるキーボードの第1長さに略等しい長さの表示部を有しており、また、キーボードの非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際におけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれるので、キーボードの使用時には、フレキシブルディスプレイの表示部は、その表示面積が広くなつて見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受けることがなく、また、キーボードにおける第1及び第2キーボードユニットは、折り畳まれた状態から水平状態に開放されてその操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。更に、キーボードを使用しない携帯時には、フレキシブルディスプレイは、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされるように折り畳まれたキーボードの長さと同等の長さに折り畳まれることから、キーボードの折畳状態に対応して折り畳むことが可能となり、従つて、携帯時には入力装置全体の携帯性を格段に向上することが可能となる。

【0025】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る入力装置について本発明を具体化した実施形態に基づき図面を参照しつつ詳細に説明する。先ず、本実施形態に係る入力装置の概略構成について図1及び図2に基づき説明する。図1は入力装置の斜視図、図2は入力装置を模式的に示す分解斜視図である。

【0026】

図1において、入力装置100は、基本的に、キーボード1、キーボード1に付設された制御部本体101、及び、制御部本体101の一側に対して回動可能に取り付けられたフレキシブルディスプレイ102から構成されている。

【0027】

ここで、先ず、キーボード1の詳細な構成について図1乃至図3に基づき説明する。図3は第1支持板と第2支持板の回動動作を同期させる同期機構を拡大し

て示す説明図である。キーボード1は、基本的に、回動連結部2を介して相互に回動可能に連結された第1キーボードユニット3及び第2キーボードユニット4から構成されている。第1キーボードユニット3は、第1ベース板5、第1ベース板5上で水平方向に回動可能に支持された第1支持板6、及び、第1支持板6上に配設された複数個のキースイッチ7から構成されている。また、第2キーボードユニット4は、第2ベース板8、第2ベース板8上で水平方向に回動可能に支持された第2支持板9、及び、第2支持板9上に配設された複数個のキースイッチ10から構成されている。

【0028】

次に、回動連結部2の構成について説明する。第1ベース板5はアルミ等の金属製薄板（樹脂製の薄板でもよい）から形成されており、第1ベース板5の側端部11（図1における右側端部）における2つの隅部12（一方のみ図示）には、それぞれ回動連結部2の一部を構成する樹脂製の軸受部材13、14が設けられている。軸受部材13には、軸受孔13Aが形成された軸受13Bが設けられている。また、軸受部材14においても同様に、軸受孔14Aが形成された軸受14Bが設けられている。

【0029】

第2ベース板8は、第1ベース板5と同様、アルミ等の金属薄板（樹脂製の薄板でもよい）から形成されており、第2ベース板8の側端部15（図1における左側端部）における2つの隅部16には、それぞれ回動連結部2の一部を構成する樹脂製の軸受部材17、18が設けられている。軸受部材17には、軸受孔17Aが形成された2つの軸受17Bが離間して設けられている。また、軸受部材18においても同様に、軸受孔18Aが形成された2つの軸受18Bが離間して設けられている。そして、軸受13Bは各軸受17Bの間に嵌入されるとともに、軸受け13Bの軸受孔13Aと各軸受17Bの軸受孔17Aとが一直線に配置され、また、軸受14Bは各軸受18Bの間に嵌入されるとともに、軸受14Bの軸受孔14Aと各軸受18Bの軸受孔18Aとが一直線に配置される。このように一直線に配置された各軸受孔13A、17A、14A、18Aに対して、支持軸19が挿嵌される。これにより、支持軸19を介して第1ベース板5と第2

ベース板8とは、相互に回動可能に支持される。かかる支持軸19に対しては、円筒状の形状を有し、中心部に摺動孔20が形成されるとともに、周囲にギア歯部21が同心円状に形成された摺動部材22が、摺動孔20を介して摺動可能に挿嵌されている。かかる摺動部材22は、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを、相互に同期して回動させるための部材であり、その作用については後述する。

【0030】

尚、軸受部材14には、これと一体に中空状の周壁部材23が形成されており、また、軸受部材18には、これと一体に中空状の周壁部材24が形成されている。周壁部材24には挿通孔24Aが形成されており、この挿通孔24Aには、第2キーボードユニット4に設けられた各キースイッチ10と制御部本体101（後述する）とを接続するための信号線が形成されたシート状の耳部69A（キースイッチ10のメンブレンスイッチを構成する上側シートと下側シートとに挟まれたシートであり、両シートから延出されている）が挿通される。耳部69Aは、図示しないリード線となり、かかるリード線は、周壁部材24の内部を通り中空状の軸受部材18、軸受18Bから外方に案内されるとともに支持軸19に巻回され、更に中空状の軸受部材14から周壁部材23に挿通案内される。また、周壁部材23には挿通孔23Aが形成されており、この挿通孔23Aには、第1キーボードユニット3に設けられた各キースイッチ7と制御部本体101とを接続するための信号線が形成されたシート状の耳部69B（キースイッチ7のメンブレンスイッチを構成する上側シートと下側シートに挟まれたシートであり、両シートから延出されている）が挿通される。耳部69Bは、図示しないリード線となり、このリード線は、周壁部材24、23を介して第2キーボードユニット4側から案内されてくるリード線と合わせて、制御部本体101に接続されている。

【0031】

第1ベース板5において、側端部11とは反対側の側端部26の近傍で略中央位置には、ネジ受部27が形成されており、このネジ受部27には、第1支持板6に形成されたネジ孔（図示せず）及びこのネジ孔に対応して後述する枠部材7

0に形成されたネジ孔28（枠部材70と一体に形成されたスイッチ配置部25に形成されている）に遊嵌されるネジ29が締結される。これにより、第1支持板6はネジ29及びネジ受部27を支点として第1ベース板5上で水平方向に回動可能に取り付けられる。また、第2ベース板8において、側端部15とは反対側の側端部8aより少し内側に入った略中央位置には、ネジ受部30が形成されており、このネジ受部30には、第2支持板9のネジ孔31に遊嵌されるネジ32が締結される。これにより、第2支持板9はネジ32、ネジ受部30を支点として第2ベース板8上で水平方向に回動可能に取り付けられる。

【0032】

第1キーボードユニット3における第1支持板6はアルミ等の金属薄板から形成されており、かかる第1支持板6上には、左手で操作される所定数のキースイッチ7が配設されている。尚、左手で操作されるキースイッチ7の数は、国際規格（ISO2126及びISO2530）に基づいて定められている。

【0033】

また、第1支持板6には1つのキースイッチ7に対応して4個の係止部33がプレス加工等により一体に形成されており、かかる第1支持板6上には、図示しない3層構造を有するメンブレンスイッチ（可動電極を有する上側シート、固定電極を有する下側シート及び上側シートと下側シート間に介挿され可動電極と固定電極とを離間させるスイッチング孔を有するスペーサシートからなる）が配置されている。尚、各係止部33は、メンブレンスイッチに形成された孔から上方へ突出されている。

【0034】

そして、各キースイッチ7は、基本的に、キートップ34、キートップ34の上下動を案内する一対のリンク部材35、キートップ34を上方へ付勢するとともにメンブレンスイッチの可動電極と固定電極からなるスイッチング部に対応してメンブレンスイッチ上に配置されたラバースプリング36から構成される。ここに、一対のリンク部材35の各上端部はキートップ34の下面に可動状態で連結され、また、各下端部は係止部33に可動状態で係止されている。非押下時にキートップ34はラバースプリング36の付勢力を介して上方へ付勢されて非押

下位置に保持されており、ラバースプリング36の付勢力に抗してキートップ34を押下した際には、ラバースプリング36がメンブレンスイッチの可動電極を押圧してスペーサのスイッチング孔で固定電極に当接させ、これにより所定のスイッチング動作が行われる。前記したキースイッチ7と第1支持板6とは、第1キーユニット37を構成する。尚、キースイッチ7の構成については公知であり、ここでは詳細な説明を省略する。

【0035】

第1支持板6の一側（図2における右側）は、その回動支点（ネジ孔28に遊嵌されたネジ29及びネジ受27）を中心とする回転半径に合致する円弧面が形成されており、また、円弧面の内側には、円弧状の長溝39が形成されている。長溝39にはネジ40が遊嵌され、そのネジ40は第1ベース板5に形成されたネジ受部41に締結されている。ここに、長溝39とネジ40とは、第1支持板6が第1ベース板5上で水平方向に回動する際に、その回動動作が安定して行われるように案内する作用を行う。

【0036】

また、第1支持板6の上面には、その周囲を覆うように、樹脂により一体形成された額物状の枠部材70が配置されており、かかる枠部材70には、各種のスイッチ25Aが配置されるスイッチ配置部25、周壁部材46及び第1ギア部材44が設けられている。第1ギア部材44は、第1支持板6にて円弧面が形成された側でその円弧面と同一曲率半径を有する円弧面42を有し、その円弧面42には摺動部材22のギア歯部21に噛合するギア歯43が形成されている。更に、第1ギア部材44の円弧面42には、複数個のロック溝45が形成されており、かかるロック溝45は後述するロック機構57の一部を構成する。また、第1ギア部材44には、第1支持板6に形成された長溝39に対応する長溝38が形成されている。

【0037】

更に、第2キーボードユニット4における第2支持板9は、前記第1支持板6と同様、アルミ等の金属薄板から形成されており、かかる第2支持板9上には、右手で操作される所定数のキースイッチ10が配設されている。尚、右手で操作さ

れるキースイッチ10の数は、国際規格（ISO2126及び2530）に基づいて定められており、前記第1支持板6上に配設される左手で操作されるキースイッチ7の数よりも多くされている。ここに、キースイッチ10は、前記キースイッチ7と同様の構成を有しているので、その構成要素についてはキースイッチ7と同一の番号を付して説明する。

【0038】

第2支持板9には1つのキースイッチ10に対応して4個の係止部33がプレス加工等により一体に形成されており、かかる第2支持板9上には、図示しない3層構造を有するメンブレンスイッチ（可動電極を有する上側シート、固定電極を有する下側シート及び上側シートと下側シート間に介挿され可動電極と固定電極とを離間させるスイッチング孔を有するスペーサシートからなる）が配置されている。尚、各係止部33は、メンブレンスイッチに形成された孔から上方へ突出されている。

【0039】

そして、各キースイッチ10は、基本的に、キートップ34、キートップ34の上下動を案内する一対のリンク部材35、キートップ34を上方へ付勢するとともにメンブレンスイッチの可動電極と固定電極からなるスイッチング部に対応してメンブレンスイッチ上に配置されたラバースプリング36から構成される。ここに、一対のリンク部材35の各上端部はキートップ34の下面に可動状態で連結され、また、各下端部は係止部33に可動状態で係止されている。非押下時にキートップ34はラバースプリング36の付勢力を介して上方へ付勢されて非押下位置に保持しており、ラバースプリング36の付勢力に抗してキートップ34を押下した際には、ラバースプリング36がメンブレンスイッチの可動電極を押圧してスペーサのスイッチング孔で固定電極に当接させ、これにより所定のスイッチング動作が行われる。前記したキースイッチ10と第2支持板9とは、第2キーユニット47を構成する。

【0040】

第2支持板9の一側（図2における左側）は、その回動支点（ネジ孔31に遊嵌されたネジ32及びネジ受30）を中心とする回転半径に合致する円弧面が形

成されており、また、円弧面の内側には、円弧状の長溝49が形成されている。長溝49にはネジ50が遊嵌され、そのネジ50は第2ベース板8に形成されたネジ受部51に締結されている。ここに、長溝49とネジ50とは、第2支持板9が第2ベース板8上で水平方向に回動する際に、その回動動作が安定して行われるように案内する作用を行う。

【0041】

また、第2支持板9の上面には、その周囲を覆うように、樹脂により一体形成された額物状の枠部材80が配置されており、かかる枠部材80には、周壁部材56及び第2ギア部材54が設けられている。第2ギア部材54は、第2支持板9にて円弧面が形成された側でその円弧面と同一曲率半径を有する円弧面52を有し、その円弧面52には摺動部材22のギア歯部21に噛合するギア歯53が形成されている。更に、第2ギア部材54の円弧面52には、複数個のロック溝55(図3参照)が形成されており、かかるロック溝55は後述するロック機構57の一部を構成する。また、第2ギア部材54には、第2支持板6に形成された長溝49に対応する長溝48が形成されている。

【0042】

続いて、第1ベース板5と第2ベース板8上で、それぞれ第1支持板6及び第2支持板9を水平方向に回動するにつき、第1支持板6と第2支持板9とを同期して回動させる同期機構、及び、同期機構を介して回動された第1支持板6、第2支持板9をその回動位置でロックするロック機構について、図3乃至図5に基づき説明する。図3は第1支持板6と第2支持板9の回動動作を同期させる同期機構を拡大して示す説明図であり、図4は第1支持板6及び第2支持板9を回動させていない状態状態を示し説明図、図5は第1支持板6及び第2支持板9を最大回動位置まで回動させた状態を示す説明図である。

【0043】

図3において、第1ギア部材44の円弧面42に形成されたギア歯43、及び、第2ギア部材54の円弧面52に形成されたギア歯53は、それぞれ支持軸19に摺動可能に挿嵌された摺動部材22のギア歯部21に噛合している。

【0044】

ここに、摺動部材 22 のギア歯部 21 は同心円状に形成されていることから、摺動部材 22 の中心からギア歯部 21 の先端までの距離は同一にされており、また、ギア歯 43 とギア歯 53 は共に円弧面 42、52 に形成されていることから、ギア歯 43 及びギア歯 53 の先端も円弧状に配置されている。従って、ギア歯部 21 と各ギア歯 43、53との間における噛合関係は、図 3 乃至図 5 に示すように、均一ではなく浅い部分と深い部分とが発生し、また、かかる噛合関係は、第 1 支持板 6 及び第 2 支持板 9 が回動することに従い摺動部材 22 が支持軸 19 上を移動する場合でも変わらない。しかしながら、摺動部材 22 のギア歯部 21 と各第 1 ギア部材 44、第 2 ギア部材 54 のギア歯 43、53 との間には、摺動部材 22 が支持軸 19 上のどの位置にある場合においても、常時深い噛合関係が存在しているので、ギア歯部 21 と各ギア歯 43、53 との噛合が外れてしまうことはない。

【0045】

第 1 支持板 6 と第 2 支持板 9 を回動させていない状態においては、図 4 に示すように、支持板 6 上に配列される各キースイッチ 7 と支持板 9 上に配列される各キースイッチ 10 は、通常のキーボードにおけるのと同一のキー配列関係を有しており、摺動部材 22 のギア歯部 21 と第 1 ギア部材 44 のギア歯 43 との間、及び、ギア歯部 21 と第 2 ギア部材 54 のギア歯 53 との間には、図 4 中上側で浅い噛合関係が存在し、下側で深い噛合関係が存在する。このようなキー配列関係の状態でキーボード 1 の操作を所望する場合には、勿論この状態でキーボードの操作を行うことができる。

【0046】

尚、第 1 支持板 6 のギア歯 43 と摺動部材 22 のギア歯部 21 との噛合い位置からネジ 29（回動中心）までの距離と、第 2 支持板 9 のギア歯 53 と摺動部材 22 のギア歯部 21 との噛合い位置からネジ 32（回動中心）までの距離とは等しくなるように構成されている。これにより、両支持板 6、9 は摺動部材 22 の作用によりスムーズに回動される。

【0047】

図 4 に示す状態から、第 1 キュニット 37 又は第 2 キュニット 47 の一方

を図4における時計方向又は反時計方向へ回動させると、第1ギア部材44のギア歯43及び第2ギア部材54のギア歯53が摺動部材22のギア歯部21に噛合していることに基づき、摺動部材22は支持軸19上を図4における下側へ摺動される。これにより、第1支持板6と第2支持板9とは、相互に同期して、それぞれネジ29、ネジ受部27を回動支点として時計方向に回動するとともに、ネジ32、ネジ受部30を支点として反時計方向へ回動する。このようなキー配列関係の状態でキーボード1の操作を所望する場合には、この状態でキーボードの操作を行うことができる。

【0048】

更に、第1支持板6又は第2支持板9を回動させると、前記の場合と同様にして、摺動部材22は更に下側へ支持軸19上で摺動され、第1支持板6と第2支持板9とは、相互に同期して、それぞれ時計方向、反時計方向に回動する。このようにして第1支持板6及び第2支持板9を最大回動位置まで回動させた状態が図5に示されている。このようなキー配列関係の状態でキーボード1の操作を所望する場合には、この状態でキーボードの操作を行うことができる。

【0049】

従って、使用者がキーボード1を使用する際に、第1キーユニット37又は第2キーユニット47の一方を回動させることにより、他方のキーユニットを一方のキーユニットと同期して回動させることが可能となる。このように、極めて簡単な操作により各キーユニット37、47を所望の操作状態に配置して、個々の使用者にとって最適な操作形態でキーボード操作を行うことができる。

【0050】

次に、前記のように第1キーユニット37及び第2キーユニット47を同期回動させ所望回動位置でそれぞれ第1ベース板5及び第2ベース板8にロックするロック機構について図3に基づき説明する。

【0051】

ロック機構57は、第1ベース板5と第1キーユニット37との間、及び、第2ベース板8と第2キーユニット47との間に配設されるが、いずれのロック機構57も同一の構成を有しているので、以下においては第2ベース板8と第2キ

一ユニット 47との間に設けられたロック機構 57のみについて説明することとする。尚、第1ベース板 5と第1キーユニット 37との間に設けられたロック機構 57は、第1キーユニット 37の第1支持板 6に配設された第1ギア部材 44の円弧面 42に形成されたロック溝 45と、第1ベース板 5の隅部 12に設けられた軸受部材 13に形成された弾性ロック片（図示せず）とから構成されている。

【0052】

ここに、ロック機構 57は第1キーユニット 37側と第2キーユニット 47側の双方について設ける必要はなく、いずれか一方のみを設ける構成であってもよい。

【0053】

図3に示すロック機構 57において、第2ベース板 8の隅部 16に設けられた軸受部材 17は中空状に形成されており、その内部には、一対の保持部 58が設けられている。かかる一対の保持部 58の間には、金属製の弾性薄板を「く」字状に折曲された弾性ロック片 59の両端が支持されている。また、第2ギア部材 54の円弧面 52に当接する軸受部材 17の凹状湾曲面 60には、開口 61が形成されており、弾性ロック片 59の先端は開口 61から突出するように構成されている。このように開口 61から突出された弾性ロック片 59の先端は、第2ギア部材 54の円弧面 52に形成された複数個のロック溝 55の1つに係止される。

【0054】

前記したロック機構 57によれば、第1キーユニット 37と第2キーユニット 47とを相互に同期させて所望の回動位置まで回動させた後、その回動位置にて弾性ロック片 59の先端を第2ギア部材 54のロック溝 55に係止することによりロックすることができる。従って、個々の使用者にとって最適な操作形態に固定した状態でキーボード操作を安定して行うことができる。

【0055】

また、ロック機構 57は、第2ギア部材 54の円弧面 52に形成されたロック溝 55と、第2ベース板 8の軸受部 17に配設された弾性ロック片 59とから簡単に構成されているので、第1キーユニット 37及び第2キーユニット 47の口

ック機構57を低いコストで実現することができる。また、ロック溝55は、第2ギア部材54の円弧面52に形成されることから、ギア歯53の形成と同時にロック溝55を形成することが可能となり、これによってもコストの低廉化を図ることができる。

【0056】

続いて、制御部本体101について図1及び図2に基づき説明する。制御部本体101は、回動連結部2における支持軸19の方向に直交する方向に沿って第1キーボードユニット3の一側に付設されており、かかる制御部本体101には、第2キーボードユニット4の耳部69Aが周壁部材24、23内を案内されるリード線、及び、第1キーボードユニット3の耳部69Bからなるリード線とが合わされて接続されている。また、制御部本体101には、フレキシブルディスプレイ102から延出され、複数の信号線が形成されたシート状の耳部103が接続されている。かかる制御部本体101は、キーボード1及びフレキシブルディスプレイ102の制御を行うものである。

【0057】

制御部本体101の背面側における2箇所には、支持凹部104、105が形成されている。支持凹部104にて相互に対向する内壁面には、支持孔106及び支持軸（図示せず）が設けられている。また、支持凹部105にて相互に対向する内壁面には、それぞれ支持孔111（一方のみを図示）が形成されている。

【0058】

更に、制御部本体101にはポインティングスティック116が配設されており、かかるポインティングスティック116は、フレキシブルディスプレイ102の表示部115に表示されるカーソル等を表示部115上で所望の位置まで移動させるものである。ポインティングスティック116を介して移動されたカーソル等は、前記したスイッチ配置部25に配置されているスイッチ25Aを押下することにより、その移動位置の確定が行われる。

【0059】

続いて、フレキシブルディスプレイ102について、図1、図2及び図6に基づき説明する。図6はフレキシブルディスプレイの分解斜視図である。

【0060】

フレキシブルディスプレイ102は、相互にスライド可能に構成された蓋部材107、117に渡って配置されるとともに、可撓性を有するプラスチック製のベースフィルム上に有機EL素子を形成してなるカラー有機ELディスプレイ118を主体として構成されている。カラー有機ELディスプレイ118は、そのベースフィルムの可撓性に基づき、後述するように湾曲状態で折畳可能である。尚、カラー有機ELディスプレイ118のベースフィルムからは、シート状の耳部103が延出されている。

【0061】

蓋部材107の下側には、支持部108、112が一体に形成されており、支持部108の外側両端面には、支持軸109及び支持孔110が形成されている。支持軸109は、制御部本体101の支持凹部104の支持孔106に回動可能な支持され、また、支持孔110には、支持凹部104に形成された図示しない支持軸が回動可能に支持されている。また、支持部112の外柄両端面には、支持軸113、114が形成されており、支持軸113は、制御部本体101の支持凹部105の支持孔111に回動可能に支持され、また同様に、支持軸114は、支持凹部105における図示しない支持孔に回動可能に支持されている。

【0062】

これにより、フレキシブルディスプレイ102におけるカラー有機ELディスプレイ118により構成される表示部115は、図1、図4及び図5に示すように、入力装置100の使用時に第1キーボードユニット3及び第2キーボードユニット4を水平状態にした際ににおけるキーボード1の長さと略等しい長さを有するものであるが、前記した支持構造に基づき、フレキシブルディスプレイ102は、制御部本体101に対して片持ち梁状態で回動可能に支持されるものである。また、蓋部材107の左側部には、係止突起119を有する2つのフック部材120が一体に形成されている。

【0063】

また、蓋部材117の右側部には、蓋部材107の各フック部材120に対応して、2つの係合部121が一体に形成されており、蓋部材107の各フック部

材120の係止突起119は、後述するように、入力装置100を折り畳んだ際に、蓋部材117の係合部121に係合する。更に、蓋部材117の右側下端部には、突起部材122が一体に形成されている。かかる突起部材122は、前記したようにフレキシブルディスプレイ102が制御部本体101に対して片持ち梁状態で回動可能に支持されており、フレキシブルディスプレイ102を図1に示すように平面状態に開放した際に蓋部材117の下端と入力装置100の設置面との間に隙間が生じた場合には制御部本体101とフレキシブルディスプレイ102の支持構造に過度の応力が集中してガタが発生するおそれがあり、場合によつてはフレキシブルディスプレイ102が蓋部材117側が下方に傾いてしまうおそれがあることから、突起部材122の下端面と入力装置100の底面とを同一面とすることにより、フレキシブルディスプレイ102を傾斜させることなく設置面に安定して支持するためのものである。このとき、前記した各支持軸109、支持孔110、支持軸113、114の軸中心と突起部材122の軸中心とを同一軸に設定されており、これにより後述するように、フレキシブルディスプレイ102を折り畳んだ際に突起部材122が障害となることはない。

【0064】

次に、蓋部材107、117を相互にスライド可能に連結する構成について図6に基づき説明する。図6において、蓋部材107における平板部123の周囲には、平面視でコ字状に壁部124が形成されており、この壁部124の内相互に対向する一対の壁部124Aの内側端部（図6における右側端部）の近傍には、両側が閉塞した長孔125が形成されている。また、蓋部材117を構成する平板部126の周囲には、平面視でコ字状の壁部127が形成されており、この壁部127内相互に対向する一対の壁部127Aの内側端部（図6における左側端部）の近傍には、長孔125と同様、両側が閉塞した長孔128が形成されている。

【0065】

また、蓋部材107の右側端部と蓋部材117の左側端部の間には、半円筒状の連結部材129が配設されている。かかる連結部材129は、半円筒部130と半円筒部130の両端を閉じる半円板部131を有しており、各半円板部13

1の端縁には、その中央部にて連結されるように長円状のリンク部132が一体に形成されている。各リンク部132の両端部にはネジ孔133が形成されており、各ネジ孔133には、それぞれネジ134が挿通されるとともに、各ネジ134は、蓋部材107の壁部124Aに形成された長孔125、及び、蓋部材117の壁部127Aに形成された長孔128に遊嵌されている。そして、各ネジ134の端部には、ナット135が締結されている。これにより、連結部材129の両側で蓋部材107及び蓋部材117をリンク連結するリンク機構が構成される。

【0066】

前記リンク機構の構成に基づき、蓋部材107と117とは、その各長孔125、128及び連結部材129のリンク部132のネジ孔133に挿通された各ネジ134を介して、相互に連結されることとなり、また、各蓋部材107、117は、各ネジ134が長孔125、128に沿って摺動可能であることから、相互にスライド可能となるものである。

【0067】

前記有機ELディスプレイ118の下面側には、ステンレス等のバネ性を有する弾性金属薄板136が貼付されており、かかる弾性金属薄板136は、前記のように構成された蓋部材107の平板部123、連結部材129の開放側、及び、蓋部材117の平板部126の全体に渡って支持配置されている。これにより、フレキシブルディスプレイ118は、その弾性金属薄板136側が蓋部材107の平板部123、連結部材129の開放側、及び、蓋部材117の平板部126の全体に渡って支持配置されることとなり、従って、フレキシブルディスプレイ118は、その開放状態で弾性金属薄板136の弾性力とも相まって平面状態に保持することができる。これにより、フレキシブルディスプレイ118に波打ち現象等が発生することを防止して文字等を安定して表示することができる。

【0068】

ここに、弾性金属薄板136が貼付された有機ELディスプレイ118の一端（左端）は、蓋部材107における左側の壁部124に固定されるとともに、蓋部材107の壁部124の内側全周に渡って形成された配置溝（図示せず）及び

蓋部材 117 の壁部 127 の内側全周に渡って形成された配置溝（図示せず）に摺動可能に遊嵌されている。そして、前記のように、蓋部材 107 と蓋部材 117 とが相互にスライドする際には、有機ELディスプレイ 118 は、蓋部材 107、117 の配置溝に沿って摺動される。

【0069】

尚、後述するように、有機ELディスプレイ 118 が折り畳まれる際、蓋部材 107 及び 117 が相互にスライドされた後に折り畳まれ、また、有機ELディスプレイ 118 が折り畳まれた状態から図 1 に示す平面状の表示状態にされる際、その折畳状状態を開放した後に蓋部材 107 及び 117 が相互にスライドされるが、有機ELディスプレイ 118 は、各蓋部材 107、117 のスライド時にそれぞれに形成された配置溝に沿って摺動されることから、その平面状態を保持することができ、また、有機ELディスプレイ 118 の下面側には弾性金属薄板 136 が貼付されていることから、有機ELディスプレイ 118 が折り畳まれた状態から平面状態に復帰する際に弾性金属薄板 136 の弾性力に基づき極めて容易且つ迅速に平面状態に復帰する。従って、有機ELディスプレイ 118 に折り癖が発生することを確実に防止することができる。

【0070】

また、連結部材 129 における各半円板部 131 のリンク部 132 を一体に形成するとともに、リンク部 132 のネジ孔 133 及び蓋部材 107 の長孔 125、蓋部材 117 の長孔 128 にネジ 134 を挿通することにより連結部材 129 を介して蓋部材 107 と蓋部材 117 とを相互に連結するように構成したので、各半円板部 131 に一体形成されたリンク部 132 は、相互に同期して作動することとなり、従って、フレキシブルディスプレイ 102 における蓋部材 107 と蓋部材 117との開閉動作を安定して行うことができ、また、開閉時各蓋部材 107、117 が傾いた状態で開閉されることはない。

【0071】

続いて、前記のように構成された入力装置 100 におけるキーボード 1 及びフレキシブルディスプレイ 102 の折畳動作について図 7 及び図 8 に基づき説明する。図 7 は入力装置に付設されたキーボードを使用状態から順次折り畳んでいく

状態を示す説明図であり、図7（A）はキーボード及びフレキシブルディスプレイを使用状態にセットした状態の入力装置を示す説明図、図7（B）はキーボードの折畳動作が完了する直前の状態を示す説明図、図7（C）はキーボードの折畳動作が完了した状態を示す説明図である。また、図8はキーボードを折り畳んだ後フレキシブルディスプレイを順次折り畳んでいく状態を示す説明図であり、図8（A）は図7（C）の状態からフレキシブルディスプレイを回動させて折り畳まれたキーボードの上面に当接させた状態を示す説明図、図8（B）は図8（A）の状態から各蓋部材が相互に離間する方向にスライドさせた状態を示す説明図、図8（C）は図8（B）の状態からキーボードの上面に当接されていない蓋部材をキーボードの下面に当接するまで回動してフレキシブルディスプレイの折畳が完了した状態を示す説明図である。

【0072】

先ず、入力装置100の使用状態においては、図7（A）に示すように、キーボード1を構成する第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とは、回動連結部2を介して離間する方向に回動されて水平状態にされている。これにより、第1キーボードユニット3及び第2キーボードユニット4は、その操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。

このとき、キーボード1の長手方向の長さを「L1」とする。また、同様に入力装置100の使用状態においては、フレキシブルディスプレイ102における蓋部材107と蓋部材117とに渡って配置されたカラー有機ELディスプレイ118は、図7（A）に示すように、キーボード1から入力された文字等の各種情報をフルサイズで表示可能なように平面状態にされている。このとき、フレキシブルディスプレイ102の長手方向における長さ「L2」は、キーボード1の長さ「L1」と略等しくされている。従って、フレキシブルディスプレイ102においてカラー有機ELディスプレイ118により構成される表示部115の長さは、キーボード1の長さ「L1」に略等しくなる。これにより、フレキシブルディスプレイ102の表示部115は、その表示面積が広くなつて表示される文字等の各種情報が見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受ける

ことがない。

【0073】

尚、図7（A）はフレキシブルディスプレイ102が、その折り畳まれた状態から平面状態に伸張された状態を示すが、このとき、フレキシブルディスプレイ102は、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4が水平状態にされたキーボード1の長手方向と平行な方向に伸張されるので、フレキシブルディスプレイ102における表示部115は、操作可能な状態にあるキーボード1の長手方向と平行な方向に配置されることとなり、従って、キーボード1の操作中にフレキシブルディスプレイ102が見易くなり、キー操作性が向上する。

【0074】

尚、蓋部材117の右側下端部に形成されている突起部材122の下端面は、キーボード1及び制御部本体101の底面と同一面となり、従って、フレキシブルディスプレイ102は、制御部本体101に対して片持ち梁状態で支持されているものの、蓋部材117側が下方に傾くことなく水平状態で安定して支持されている。

【0075】

そして、図7（A）に示す状態から第2キーボードユニット4を回動連結部2の回りに左方向へ回動させると、図7（B）に示す状態となり、更に第2キーボードユニット4を左方向へ回動させると、第2キーボードユニット4は第1キーボードユニット3に重ね合わされる。この状態が図7（C）に示されている。このとき、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが折り畳まれた状態におけるキーボード1の長さは「L3」に設定されている。また、第1キーボードユニットの幅（第2キーボードユニットの幅と同一幅）と制御部本体101の幅とを加えた幅は「W1」に設定されており、かかる幅「W1」はフレキシブルディスプレイ102の幅「W2」に等しい。

【0076】

更に、フレキシブルディスプレイ102は、図7（C）に示す状態から手前側に回動され、蓋部材107の壁部124が折り畳まれたキーボード1の上面（第2キーボードユニット4の底面）に当接される。この状態が図8（A）に示され

ている。

【0077】

このとき、フレキシブルディスプレイ102の蓋部材107と蓋部材117は、共に連結部材129側にスライドされて固定された状態にある。かかる状態について図9（A）及び図10に基づき説明する。図9（A）は平面状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大断面図である。図10は平面状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大斜視図である。

【0078】

図10において、蓋部材107における各壁部124Aに形成された長孔125よりも外側には段差部137が形成されており（図6参照）、かかる段差部137を利用して右側が開放された横U字状のU字溝138が設けられている。また、同様に蓋部材117における各壁部127Aに形成された長孔128よりも外側には段差部139が形成されており、かかる段差部139を利用して左側が開放された横U字状のU字溝140が設けられている。

【0079】

そして、各蓋部材107、117が連結部材129側にスライドされた状態においては、蓋部材107にてネジ134は、長溝125の左端に当接し、これに伴いU字溝138の左端に当接している。また、蓋部材117にてネジ134は長孔128の右端に当接し、これに伴いU字溝140の右端に当接している。このとき、上側の段差部137は、連結部材129の半円板部131に形成されたリンク部132と半円板部131との間隙に嵌合されており、また、上側の段差部139は、同様にリンク部132と半円板部131との間隙に嵌合されている。かかる構成に基づき、蓋部材107及び蓋部材117と連結部材129とは、ロックされた状態となり、これにより各蓋部材107、117は回動されることなく有機ELディスプレイ118を平面状態に保持するものである。

【0080】

尚、前記図10に示す状態を断面で示すと図9（A）に示す状態となり、図9（A）において、フレキシブルディスプレイ102における蓋部材107の2つ

の壁部 124A の端面と蓋部材 117 の壁部 127A の端面とは、各蓋部材 107、117 が連結部材 129 側にスライドされて相互に当接している。

【0081】

続いて、前記図 8 (A) に示す状態から、蓋部材 107 と蓋部材 117 とは、それぞれ外側に向かってスライドされる。このように各蓋部材 107、117 が相互にスライドされた状態について図 9 (B) 及び図 11 に基づき説明する。図 9 (B) は図 9 (A) の状態から各蓋部材を相互に外側に向かってスライドした状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大断面図である。図 11 は図 9 (A) の状態から各蓋部材を相互に外側に向かってスライドした状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大斜視図である。

【0082】

図 11において、各蓋部材 107、117 がそれぞれ外側に向かってスライドされた状態においては、蓋部材 107 にてネジ 134 は、長溝 125 の右端に当接し、これに伴い U 字溝 138 の左端から開放側に移動している。また、蓋部材 117 にてネジ 134 は、長孔 128 の左端に当接し、これに伴い U 字溝 140 の右端から開放側に移動している。このとき、上側の段差部 137 は、連結部材 129 の半円板部 131 に形成されたリンク部 132 と半円板部 131 との間隙から離脱し、また、上側の段差部 139 は、同様にリンク部 132 と半円板部 131 との間隙から離脱する。これにより、蓋部材 107 及び蓋部材 117 と連結部材 129 との間におけるロック状態は解除され、各蓋部材 107、117 は回動可能な状態となって有機 EL ディスプレイ 118 の折畳が可能となる。

【0083】

尚、前記図 11 に示す状態を断面で示すと図 9 (B) に示す状態となり、図 9 (B) において、フレキシブルディスプレイ 102 における蓋部材 107 の 2 つの壁部 124A の端面と蓋部材 117 の壁部 127A の端面とは、相互に離間された状態になる。

【0084】

この後、蓋部材 117 は、図 8 (B) における下方向（時計方向）に回動され

、前記のように折り畳まれたキーボード1の下面（第1キーボードユニット3の底面）に当接されるとともに、蓋部材107に形成された各フック部材120の係止突起119が蓋部材117の各係合部121に係合されて各蓋部材107、117は折り畳まれた状態で相互にロックされる。

【0085】

このとき、カラー有機ELディスプレイ118の一端は、蓋部材107における左側の壁部124に固定されるとともに、壁部124の内側全周に渡って形成された配置溝及び蓋部材117の内側全周に渡って形成された配置溝に摺動可能に遊嵌されていることから、前記のように各蓋部材107、117を折り畳んだ際には、カラー有機ELディスプレイ118は、図9（C）に示すように、折り畳まれて第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが相互に重ね合わせられたキーボード1の上下両面を被覆するように折り畳まれ、且つ、蓋部材107、117の折畠動作に追随して配置溝に沿って摺動し、連結部材129における半円筒部130の内部においてその湾曲面に沿って湾曲状態で折り畳まれる。尚、図9（C）は図9（B）の状態から蓋部材を回動させてカラー有機ELディスプレイを折り畳んだ状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大断面図である。

【0086】

これにより、入力装置100のキーボード1を使用しない携帯時には、カラー有機ELディスプレイは、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが折り畳まれたキーボード1の長さ「L3」と同等の長さに折り畳まれることとなり、従って、キーボード1の折畠状態に対応して折り畳むことができる。この結果、携帯時には入力装置100全体の携帯性を格段に向上することができる。

【0087】

また、カラー有機ELディスプレイ118の湾曲部の曲率を大きくすることができます、この結果、湾曲部に曲がり癖が発生することを確実に防止することができ、長期に渡ってカラー有機ELディスプレイ118の平面性を保持することができる。

【0088】

更に、フレキシブルディスプレイ102の幅「W2」は、第1キーボードユニットの幅（第2キーポートユニットの幅と同一幅）と制御部本体101の幅とを加えた幅は「W1」と等しくされていることから、フレキシブルディスプレイ102は、折り畳まれた状態で第1キーボードユニット3と制御部本体101とを合わせたサイズと同等のサイズを有することとなり、従って、キーボード1とフレキシブルディスプレイ102とを折り畳んだ状態で両者の間でずれが発生することなく一体感を実現しつつコンパクト化を図ることができる。

【0089】

前記のように構成された入力装置100の使用形態としては、例えば、図12に示すように、制御部本体101にPDA装置141を接続し、かかるPDA装置141に対するデータ入力装置として使用したり、また、図13に示すように、制御部本体101に携帯電話142を接続し、かかる携帯電話142に対するデータ入力装置として使用することができる。このように使用した場合には、データ入力キーが少なくて小さく、従って、データ入力が困難で且つ煩雑であり、また、ディスプレイが小さくて表示データが見にくいというPDA装置141や携帯電話142における欠点を解消しつつ、デスクトップ装置と同等のデータ入力能力及びデータ表示能力をフルに活用することができる。

【0090】

また、前記したキーボード1とフレキシブルディスプレイ102を使用すれば、図14に示すように、折畳可能なノート型パーソナルコンピュータを実現することも可能である。図14はノート型パーソナルコンピュータの斜視図である。

【0091】

図14に示すノート型パーソナルコンピュータ150では、前記した入力装置100における制御部本体101に代えて、コンピュータ本体151が第1キーボードユニット3の一側に付設されている。尚、キーボード1の構成、フレキシブルディスプレイ102の構成は、前記入力装置100におけると同様の構成を有している。

【0092】

この場合、前記入力装置100と同様、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを水平状態にしたキーボード1の長さ「L1」とフレキシブルディスプレイ102を平面状態にした長さ「L2」とは、同一長さに設定され、また、第1キーボードユニット3の幅（第2キーボードユニット4の幅と同一幅）「W1」とフレキシブルディスプレイ102の幅「W2」とは、同一幅に設定されている。

【0093】

かかるノート型パーソナルコンピュータ150によっても、前記した入力装置100の場合と同様の効果を得ることができる。

【0094】

尚、本発明は前記実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内で種々の改良、変形が可能であることは勿論である。

【0095】

前記実施形態においては、フレキシブルディスプレイ102を構成するディスプレイとしてカラー有機ELディスプレイ118を使用しているが、これに限定されることなく、例えば、可撓性を有する液晶ディスプレイ、In-Plane型電気永動表示方式のペーパーライクディスプレイや、電気回路と表示媒体とが一体化された所謂電子ペーパーであってもよい。

【0096】

また、フレキシブルディスプレイ102を制御部本体101を介すことなく、直接第1キーボードユニット3あるいは第2キーボードユニット4の一側に対して回動可能に取り付けても良い。

【0097】

【発明の効果】

以上説明した通り請求項1に係る入力装置では、フレキシブルディスプレイが、その折り畳まれた状態から、第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されるので、フレキシブルディスプレイにおける表示部は、操作可能な状態にあるキーボードの長手方向と平行な方向に配置されることとなり、従って、キーボードの操作中にフレキシブルディ

スプレイが見易くなり、キー操作性が向上する。

【0098】

また、請求項3に係る入力装置では、可撓性のフレキシブルディスプレイは、キーボードの使用時に第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際におけるキーボードの第1長さに略等しい長さの表示部を有しており、また、キーボードの非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際におけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれるので、キーボードの使用時には、フレキシブルディスプレイの表示部は、その表示面積が広くなつて見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受けることがなく、また、キーボードにおける第1及び第2キーボードユニットは、折り畳まれた状態から水平状態に開放されてその操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。更に、キーボードを使用しない携帯時には、フレキシブルディスプレイは、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされるように折り畳まれたキーボードの長さと同等の長さに折り畳まれることから、キーボードの折畳状態に対応して折り畳むことが可能となり、従つて、携帯時には入力装置全体の携帯性を格段に向上することが可能となる。

【0099】

また、請求項4に係る入力装置では、フレキシブルディスプレイが、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれるので、第1及び第2キーボードユニットの回動連結部に対応して湾曲するフレキシブルディスプレイの湾曲部の曲率を大きくすることができ、この結果、湾曲部に曲がり癖が発生することを確実に防止することができ、長期に渡ってフレキシブルディスプレイの平面性を保持することができる。

【0100】

更に、請求項5に係る入力装置では、フレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットに付設された制御部本体の一側に回動可能に取り付けられるとともに、第1又は第2キーボードユニットの幅と制御部本体の幅とを加えた幅を有するので、折り畳まれた状態でフレキシブルディスプレイは、キーボー

ドユニットと制御部本体とを合わせたサイズと同等のサイズを有することとなり、従って、キーボードとフレキシブルディスプレイとを折り畳んだ状態で両者の間でそれが発生することなく一体感を実現しつつにコンパクト化を図ることができる。

【0101】

また、請求項7に係るパーソナルコンピュータでは、コンピュータ本体の一側に回動可能に取り付けられた可撓性のフレキシブルディスプレイは、その折り畳まれた状態から、第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされたキーボードの長手方向と平行な方向に伸張されるので、フレキシブルディスプレイにおける表示部は、操作可能な状態にあるキーボードの長手方向と平行な方向に配置されることとなり、従って、キーボードの操作中にフレキシブルディスプレイが見易くなり、キー操作性が向上する。

【0102】

また、請求項8に係るパーソナルコンピュータでは、可撓性のフレキシブルディスプレイは、キーボードの使用時に第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際におけるキーボードの第1長さに略等しい長さの表示部を有しており、また、キーボードの非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際におけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれるので、キーボードの使用時には、フレキシブルディスプレイの表示部は、その表示面積が広くなつて見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受けることがなく、また、キーボードにおける第1及び第2キーボードユニットは、折り畳まれた状態から水平状態に開放されてその操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。更に、キーボードの使用しない携帯時には、フレキシブルディスプレイは、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わるように折り畳まれたキーボードの長さと同等の長さに折り畳まれることから、キーボードの折畳状態に対応して折り畳むことが可能となり、従って、携帯時には入力装置全体の携帯性を格段に向上することが可能となる。

【0103】

更に、請求項9に係るパーソナルコンピュータでは、フレキシブルディスプレイが、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた状態のキーボードの両面を外側から被覆するように、折り畳まれるので、第1及び第2キーボードユニットの回動連結部に対応して湾曲するフレキシブルディスプレイの湾曲部の曲率を大きくすることができ、この結果、湾曲部に曲がり癖が発生することを確実に防止することができ、長期に渡ってフレキシブルディスプレイの平面性を保持することができる。

【0104】

また、請求項10に係るパーソナルコンピュータでは、コンピュータ本体の一側に回動可能に取り付けられたフレキシブルディスプレイは、第1又は第2キーボードユニットの幅とコンピュータ本体の幅とを加えた幅を有するので、折り畳まれた状態でフレキシブルディスプレイは、キーボードユニットとコンピュータ本体とを合わせたサイズと同等のサイズを有することとなり、従って、キーボードとフレキシブルディスプレイとを折り畳んだ状態で両者の間でずれが発生することなく一体感を実現しつつにコンパクト化を図ることができる。

【0105】

更に、請求項11に係る入力装置では、可撓性のフレキシブルディスプレイは、キーボードの使用時に第1及び第2キーボードユニットが水平状態にされた際におけるキーボードの第1長さに略等しい長さの表示部を有しており、また、キーボードの非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニットが重ね合わされた際におけるキーボードの第2長さに略等しい長さに折り畳まれるので、キーボードの使用時には、フレキシブルディスプレイの表示部は、その表示面積が広くなつて見易くなるとともに、文字等を表示するにつき何等制約を受けることがなく、また、キーボードにおける第1及び第2キーボードユニットは、折り畳まれた状態から水平状態に開放されてその操作面積がデスクトップ型のキーボードと同等となり、キー操作性が格段に向上する。更に、キーボードを使用しない携帯時には、フレキシブルディスプレイは、第1及び第2キーボードユニットが重ね合わるように折り畳まれたキーボードの長さと同等の長さに折り畳まれることから、キーボードの折畳状態に対応して折り畳むことが可能となり、従

って、携帯時には入力装置全体の携帯性を格段に向上することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

入力装置の斜視図である。

【図2】

入力装置を模式的に示す分解斜視図である。

【図3】

第1支持板と第2支持板の回動動作を同期させる同期機構を拡大して示す説明図である。

【図4】

第1支持板及び第2支持板を回動させていない状態状態を示し説明図である。

【図5】

第1支持板及び第2支持板を最大回動位置まで回動させた状態を示す説明図である。

【図6】

フレキシブルディスプレイの分解斜視図である。

【図7】

入力装置に付設されたキーボードを使用状態から順次折り畳んでいく状態を示す説明図であり、図7（A）はキーボード及びフレキシブルディスプレイを使用状態にセットした状態の入力装置を示す説明図、図7（B）はキーボードの折畳動作が完了する直前の状態を示す説明図、図7（C）はキーボードの折畳動作が完了した状態を示す説明図である。

【図8】

キーボードを折り畳んだ後フレキシブルディスプレイを順次折り畳んでいく状態を示す説明図であり、図8（A）は図7（C）の状態からフレキシブルディスプレイを回動させて折り畳まれたキーボードの上面に当接させた状態を示す説明図、図8（B）は図8（A）の状態から各蓋部材が相互に離間する方向にスライドさせた状態を示す説明図、図8（C）は図8（B）の状態からキーボードの上面に当接されていない蓋部材をキーボードの下面に当接するまで回動してフレキ

シブルディスプレイの折畳が完了した状態を示す説明図である。

【図9】

キーボードを折り畳んだ後フレキシブルディスプレイを順次折り畳んでいく状態を示す説明図であり、図9（A）は平面状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大断面図、図9（B）は図9（A）の状態から各蓋部材を相互に外側に向かってスライドした状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大断面図、図9（C）は図9（B）の状態から蓋部材を回動させてカラー有機ELディスプレイを折り畳んだ状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大断面図である。

【図10】

平面状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大斜視図である。

【図11】

図11は図9（A）の状態から各蓋部材を相互に外側に向かってスライドした状態にあるフレキシブルディスプレイの連結部材付近の構造を示す拡大斜視図である。

【図12】

入力装置にPDA装置を接続した状態を示す斜視図である。

【図13】

入力装置に携帯電話を接続した状態を示す斜視図である。

【図14】

ノート型パーソナルコンピュータを示す斜視図である。

【符号の説明】

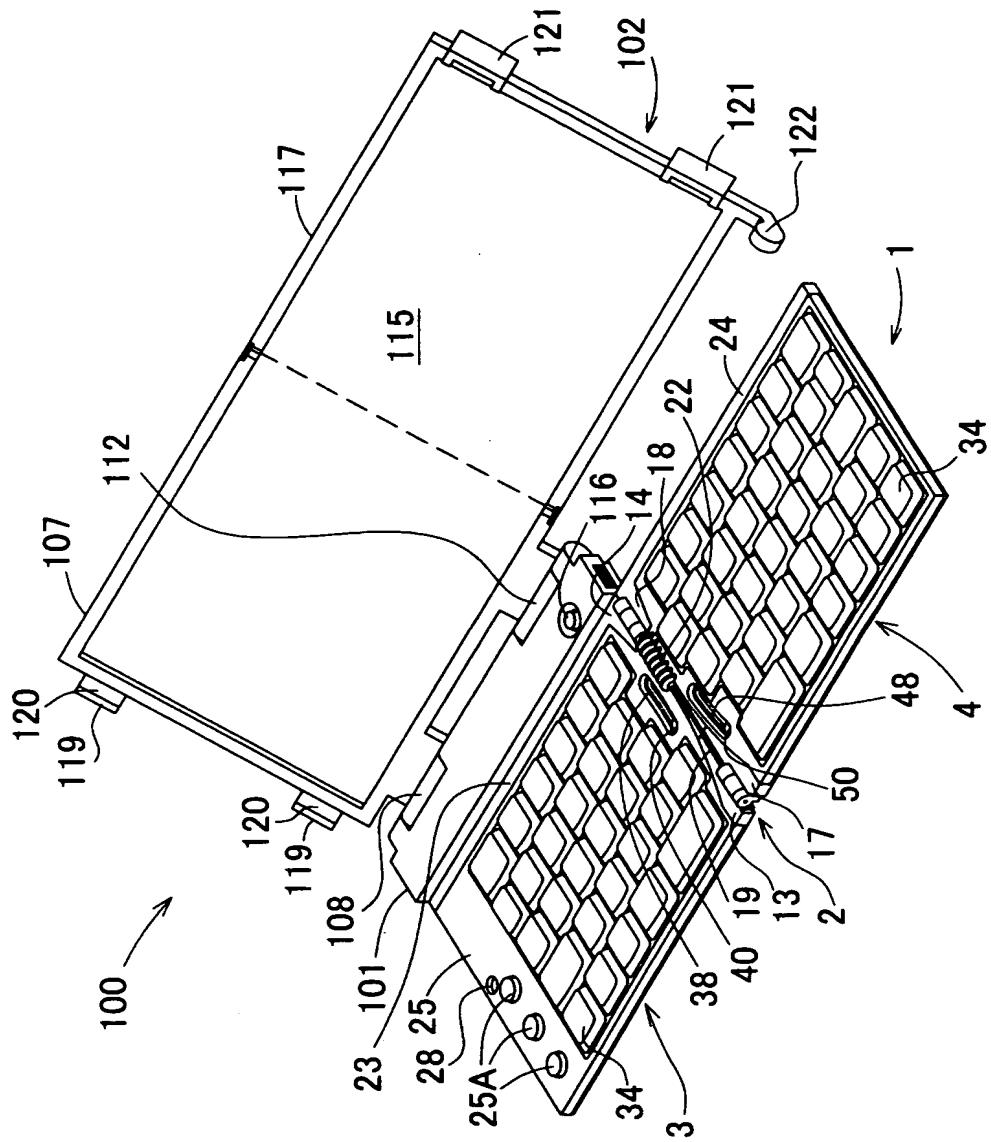
- | | |
|-----|-------------|
| 1 | キーボード |
| 2 | 回動連結部 |
| 3 | 第1キーボードユニット |
| 4 | 第2キーボードユニット |
| 100 | 入力装置 |
| 101 | 制御部本体 |

102	フレキシブルディスプレイ
104	支持凹部
105	支持凹部
106	支持孔
107	蓋部材
108	支持部
109	支持軸
110	支持孔
111	支持孔
112	支持部
113	支持軸
114	支持軸
115	表示部
117	蓋部材
118	カラー有機ELディスプレイ
122	突起部材
125	長孔
128	長孔
129	連結部材
132	リンク部
133	ネジ孔
134	ネジ
135	ナット
136	弾性金属薄板
141	PDA装置
142	携帯電話
150	ノート型パーソナルコンピュータ
151	コンピュータ本体

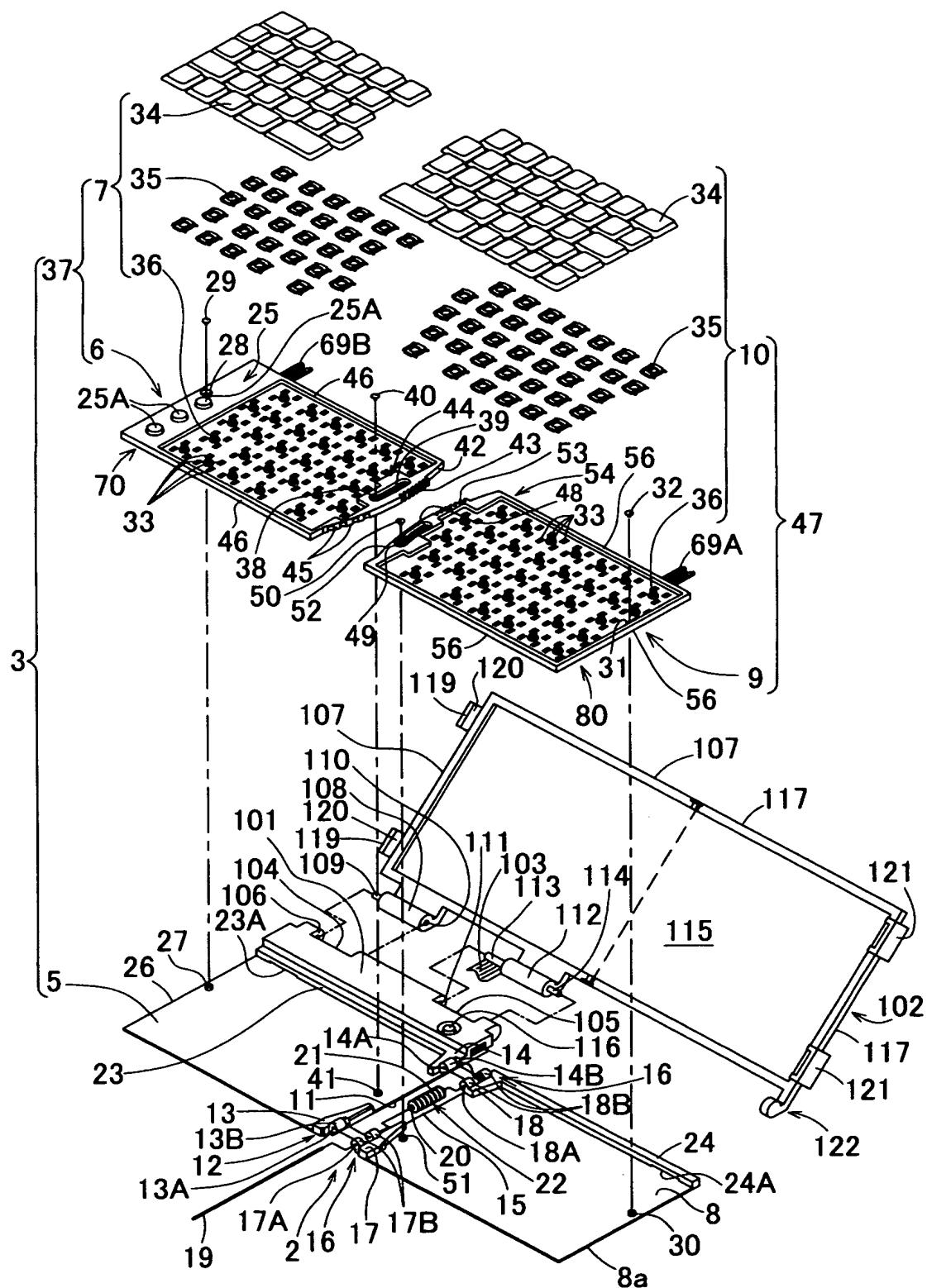
【書類名】

四面

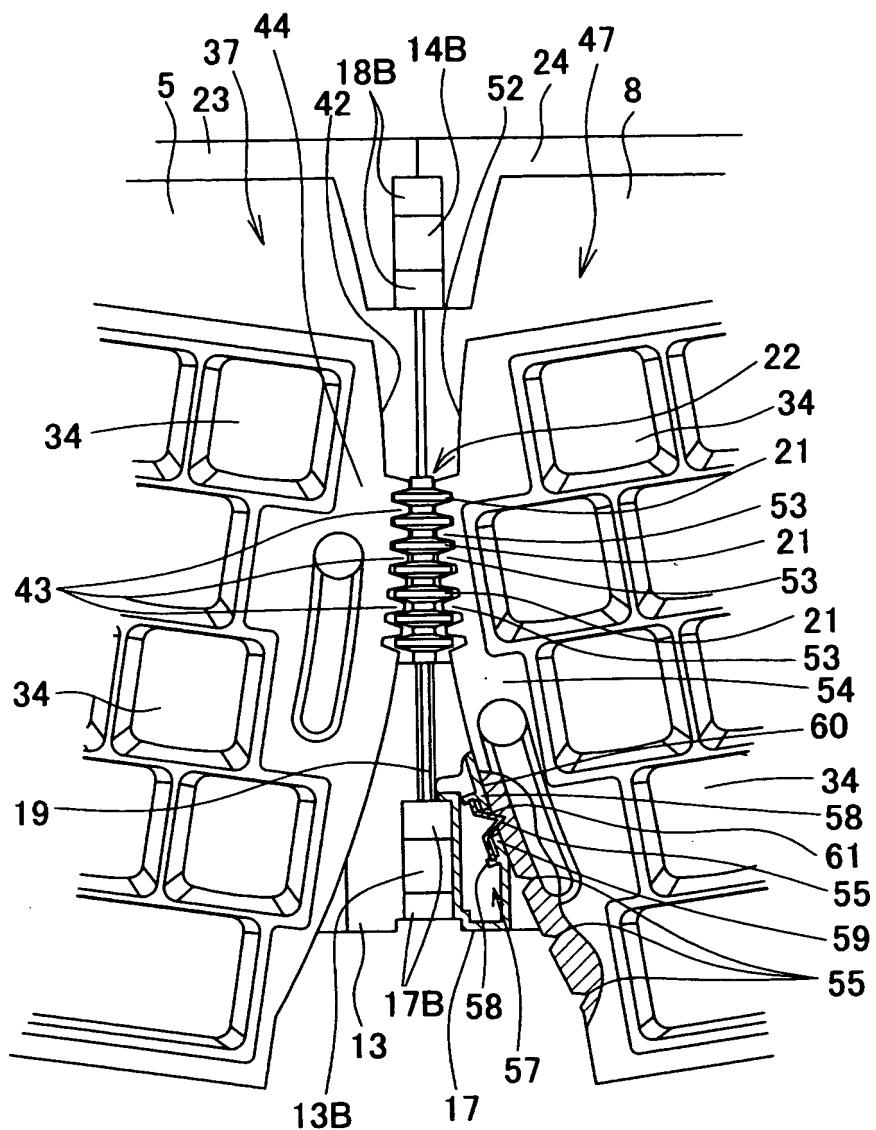
【図1】



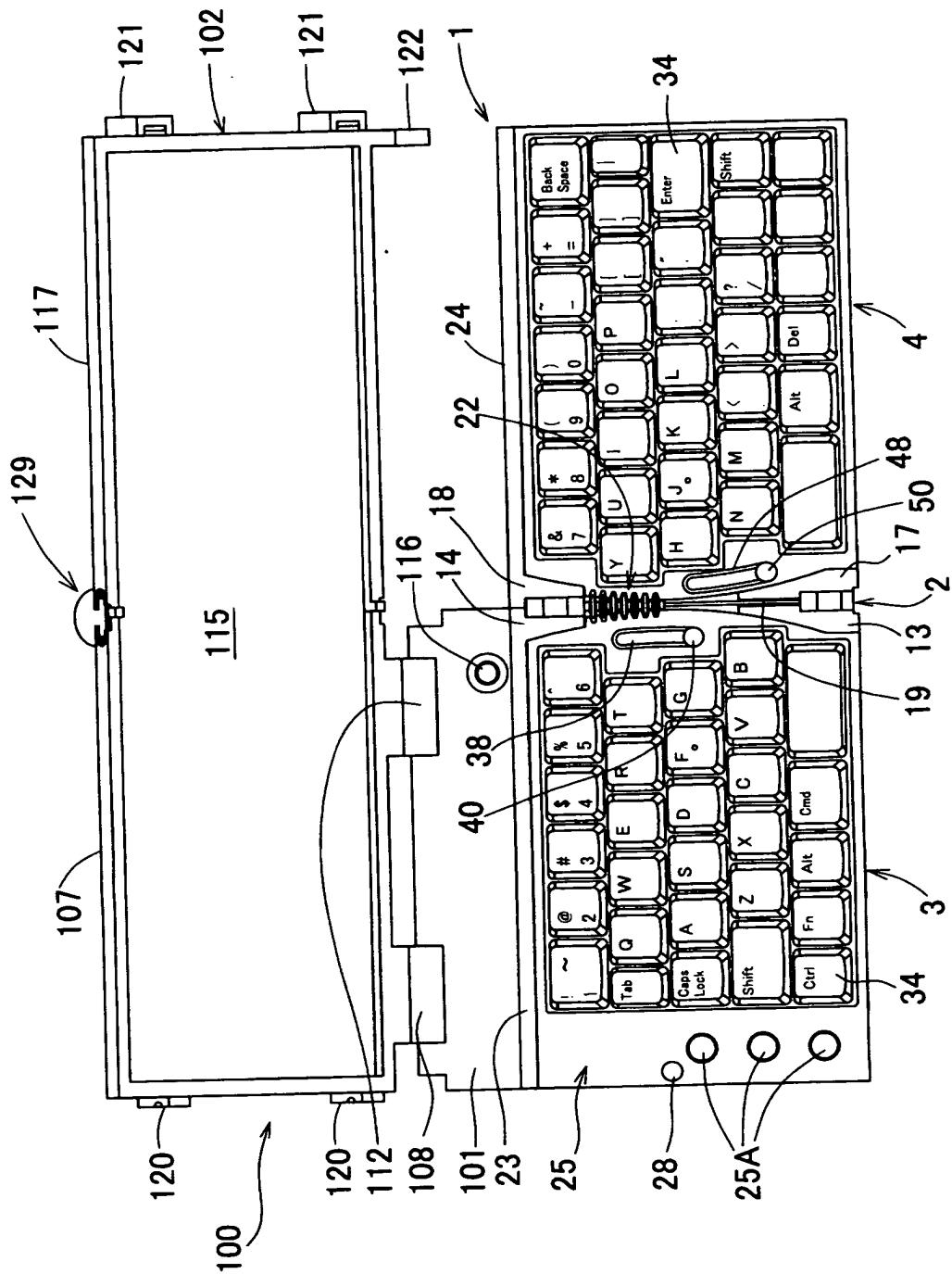
【図 2】



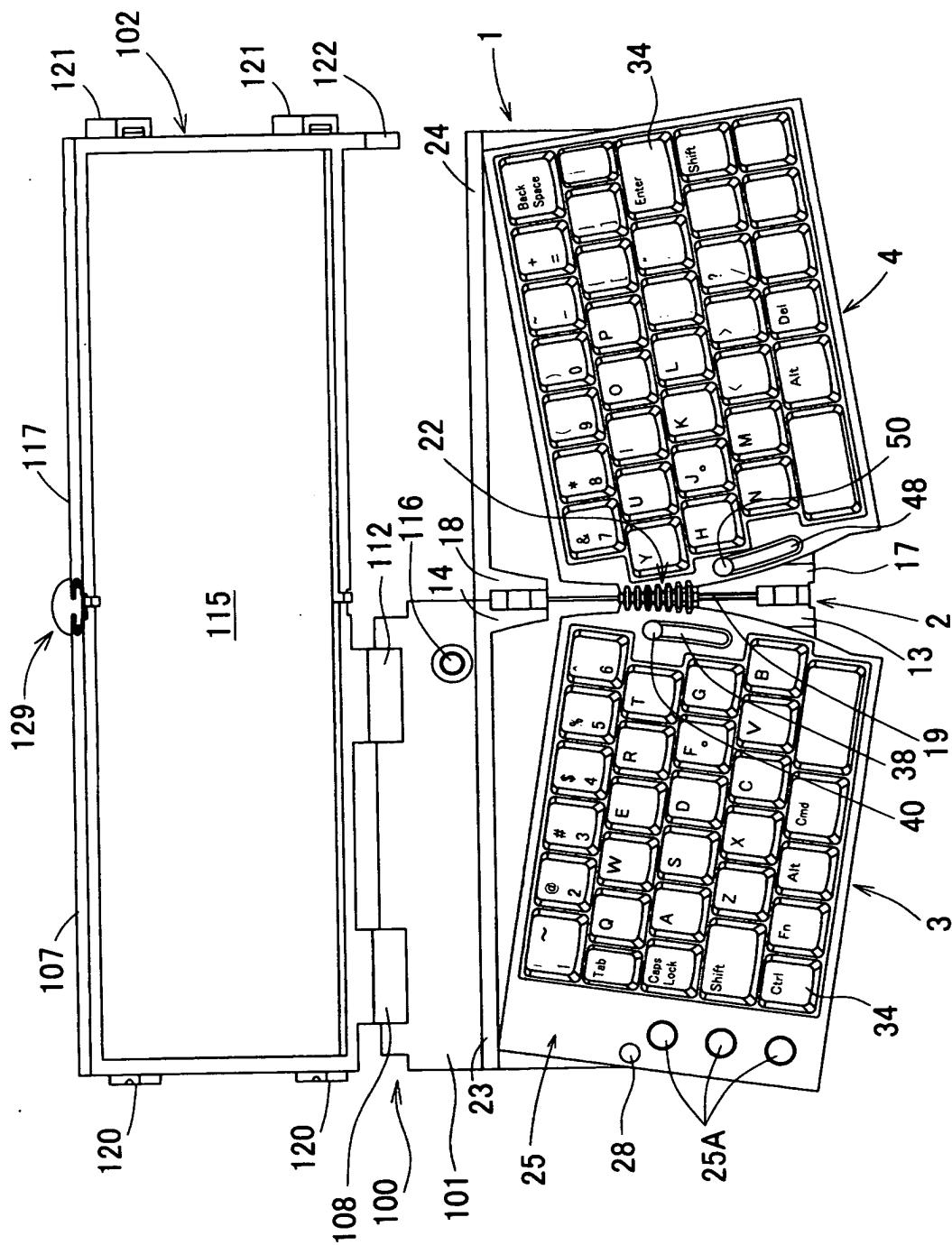
【図3】



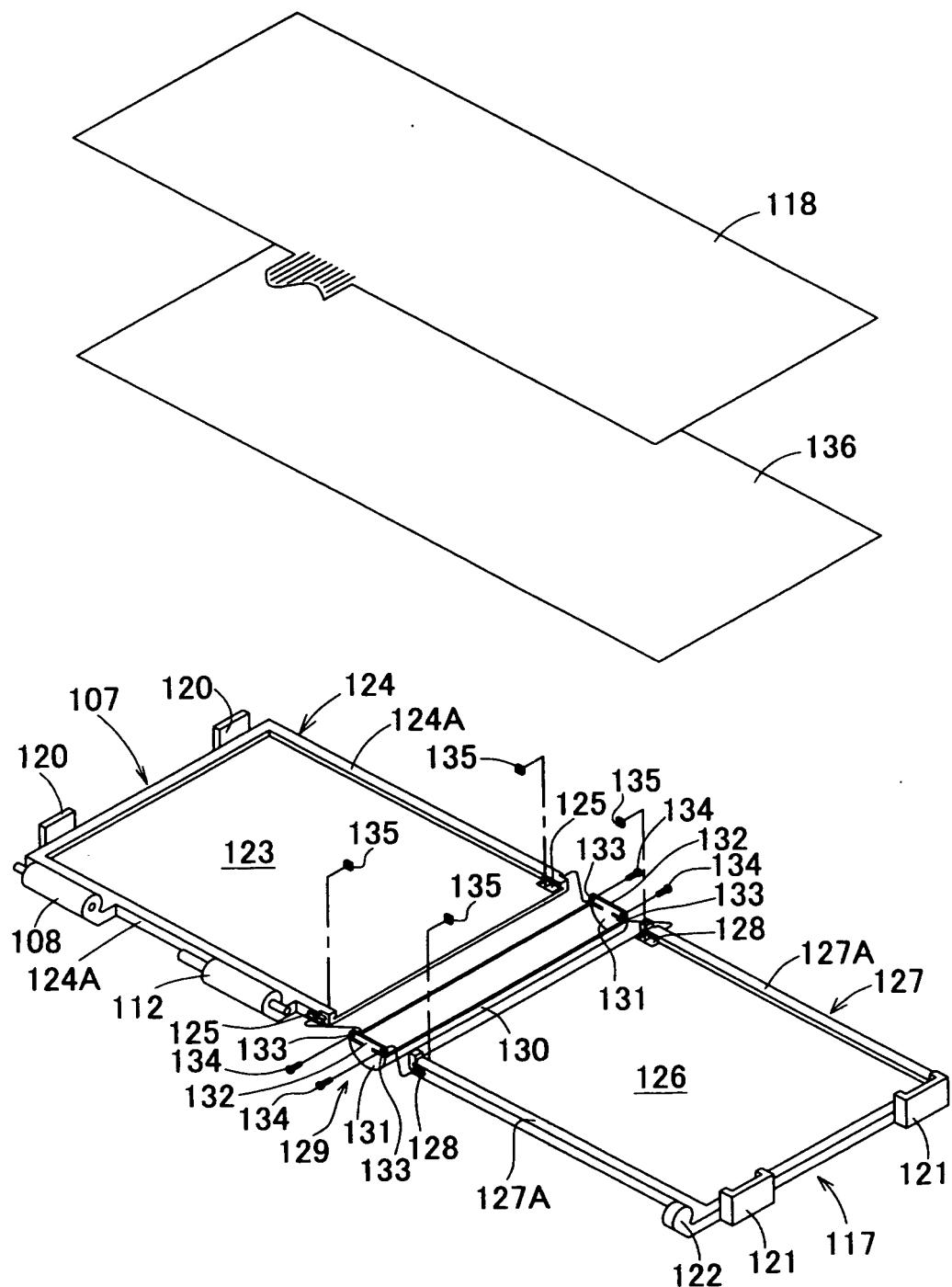
【図4】



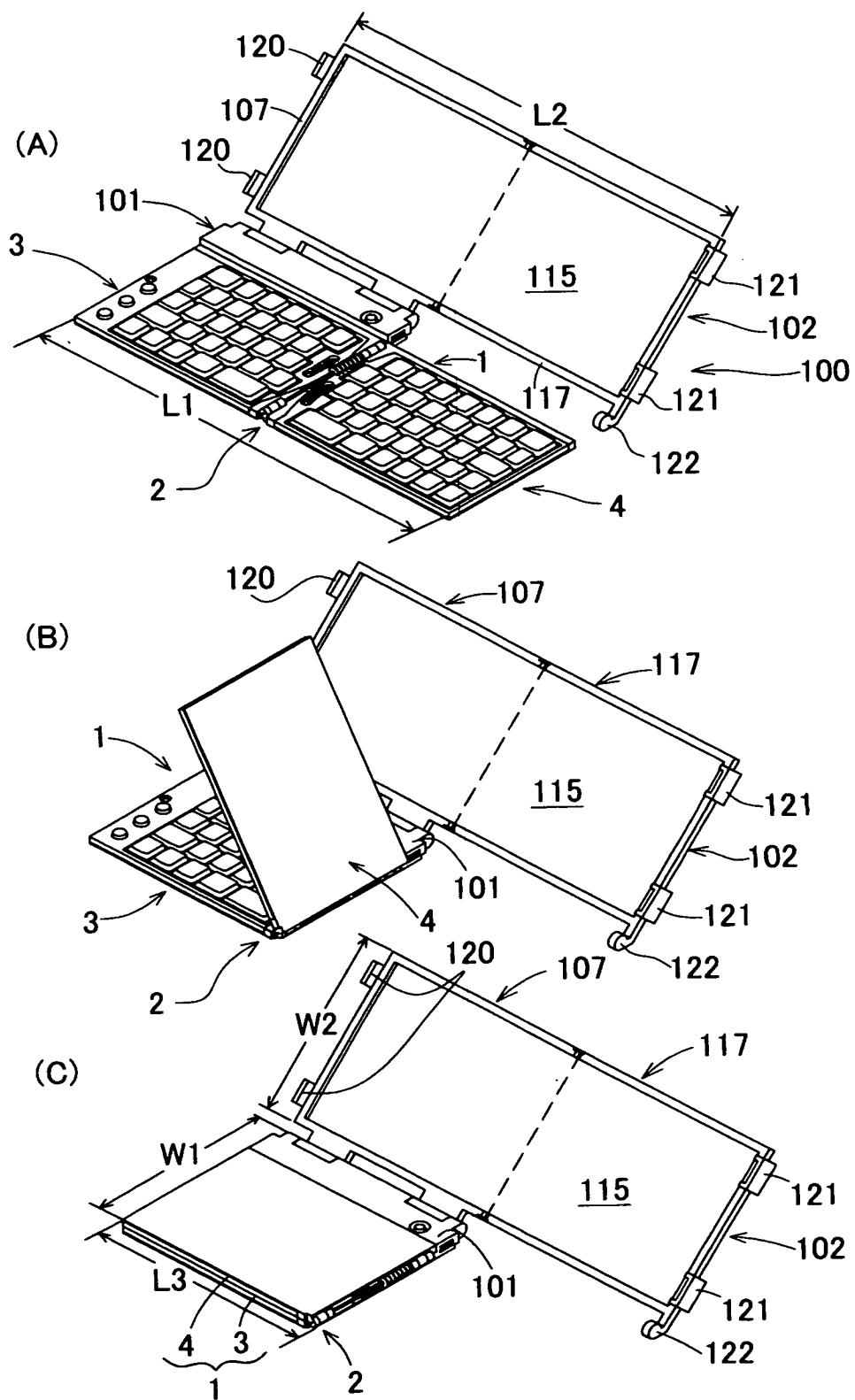
【図 5】



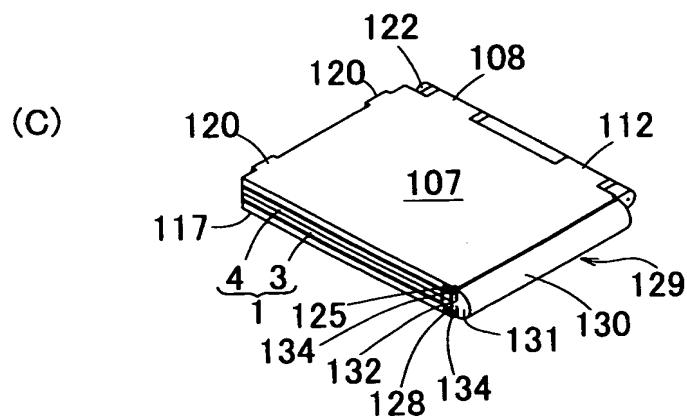
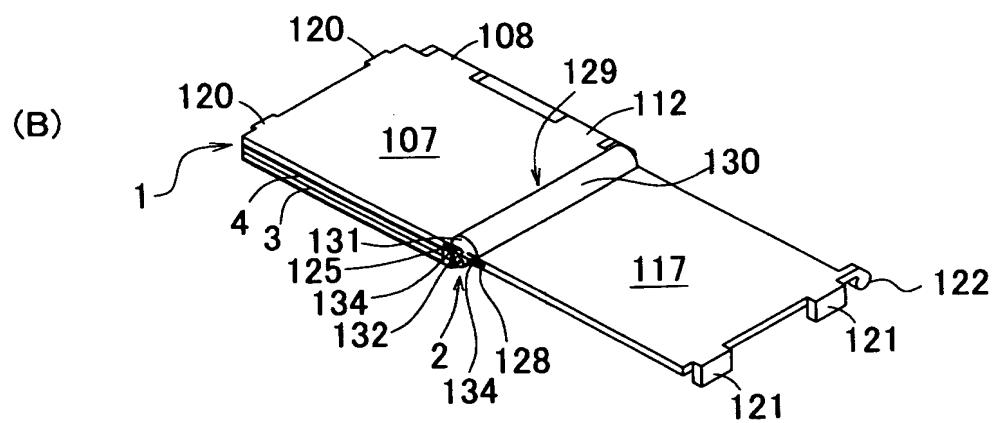
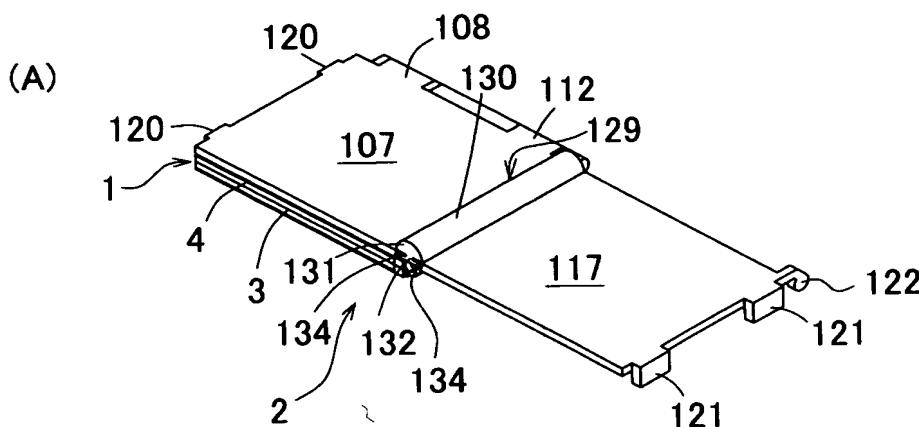
【図6】



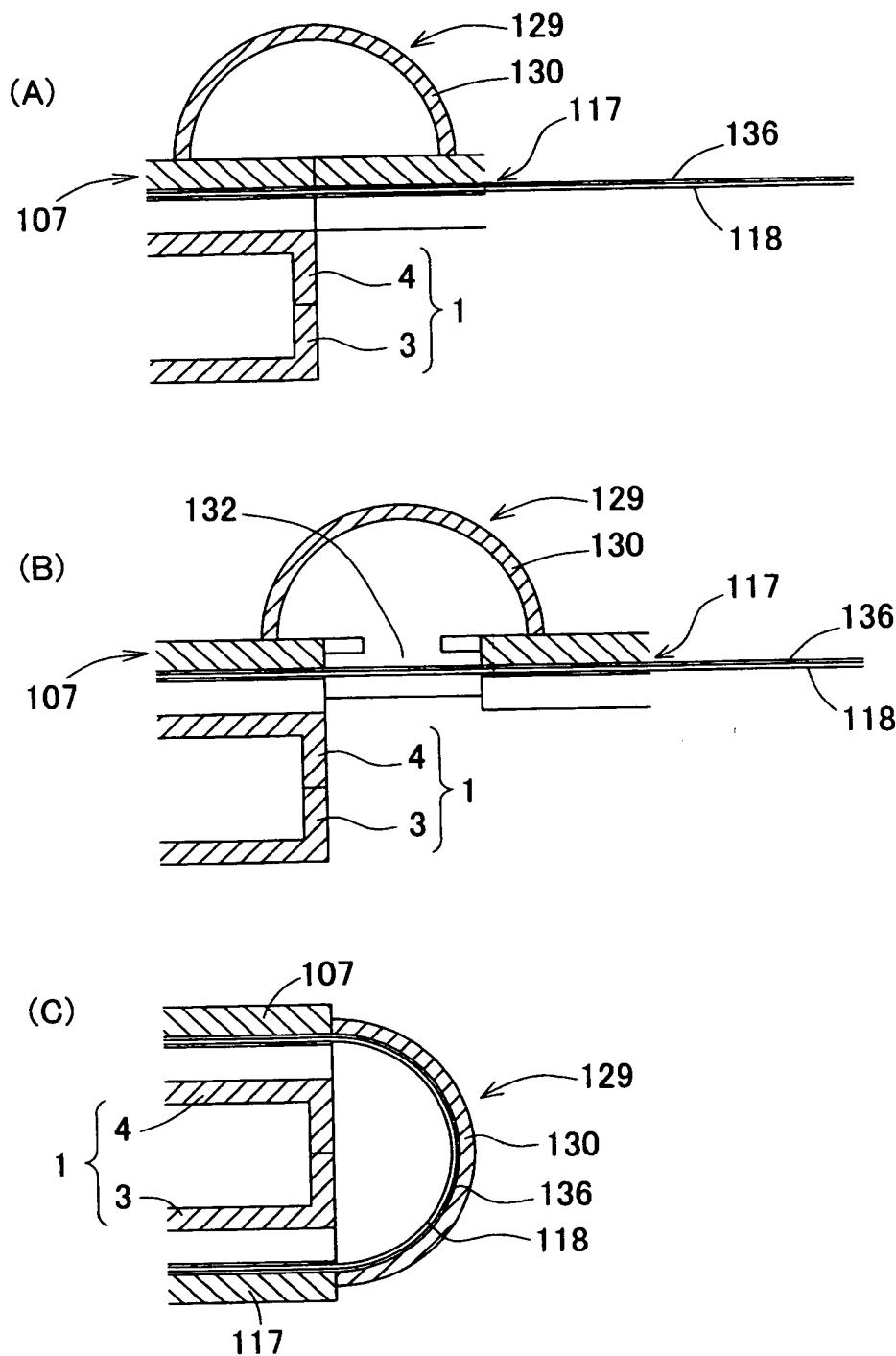
【図7】



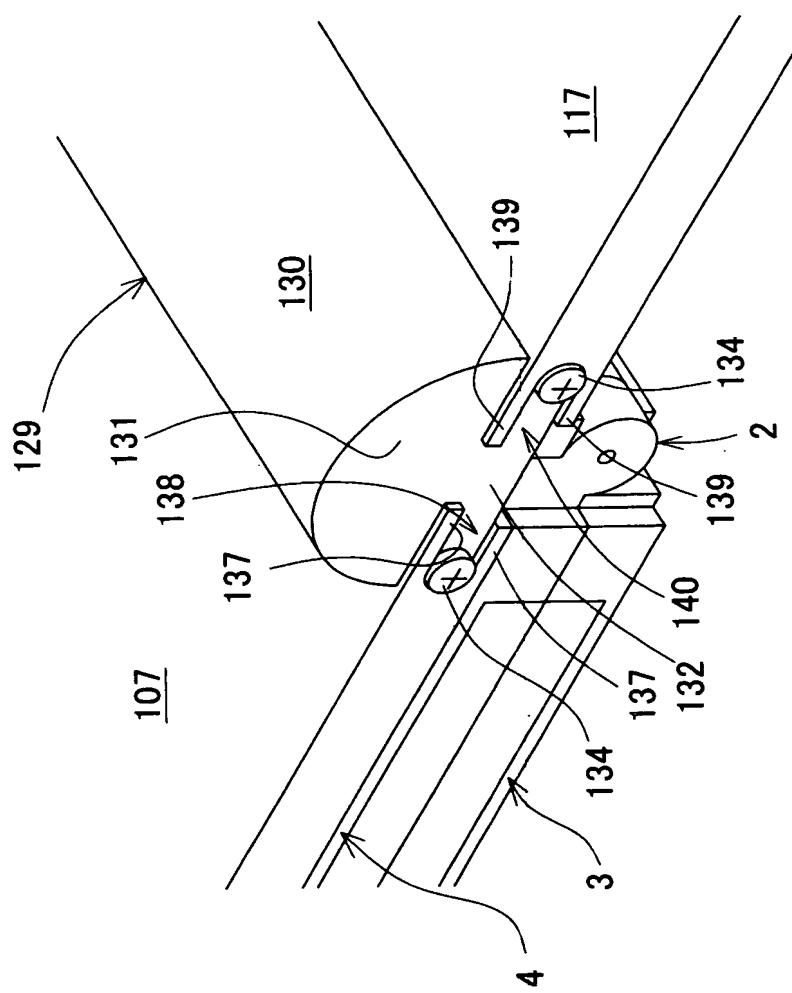
【図8】



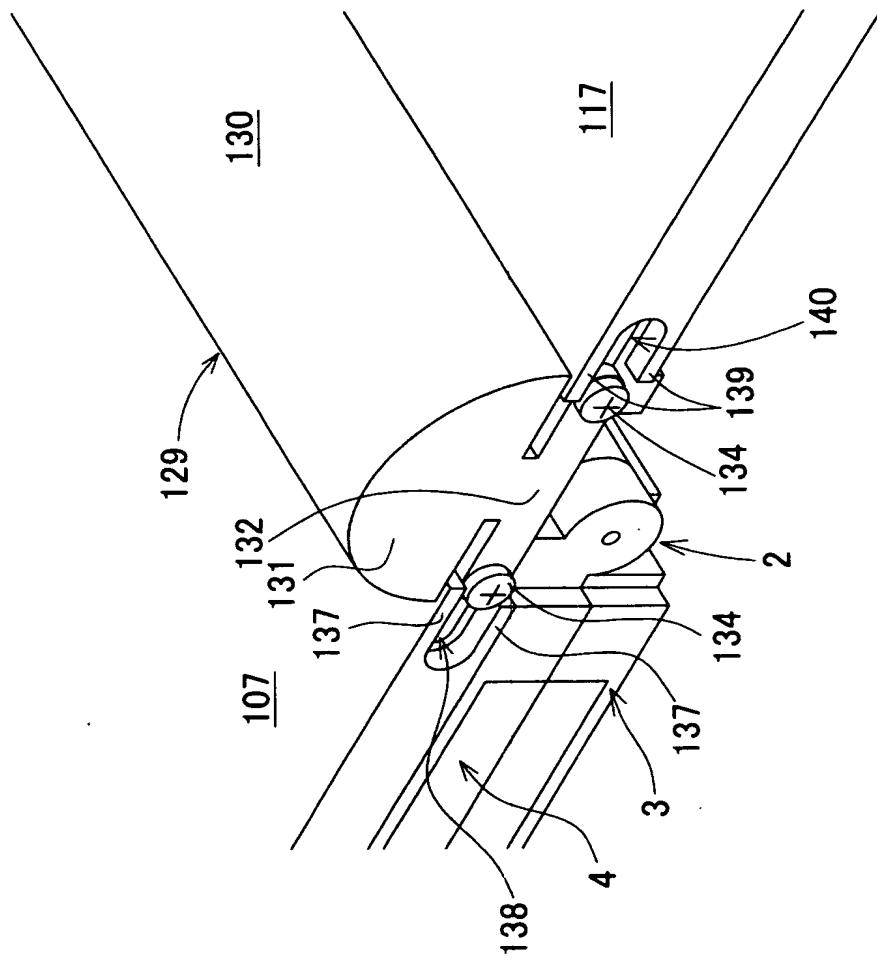
【図9】



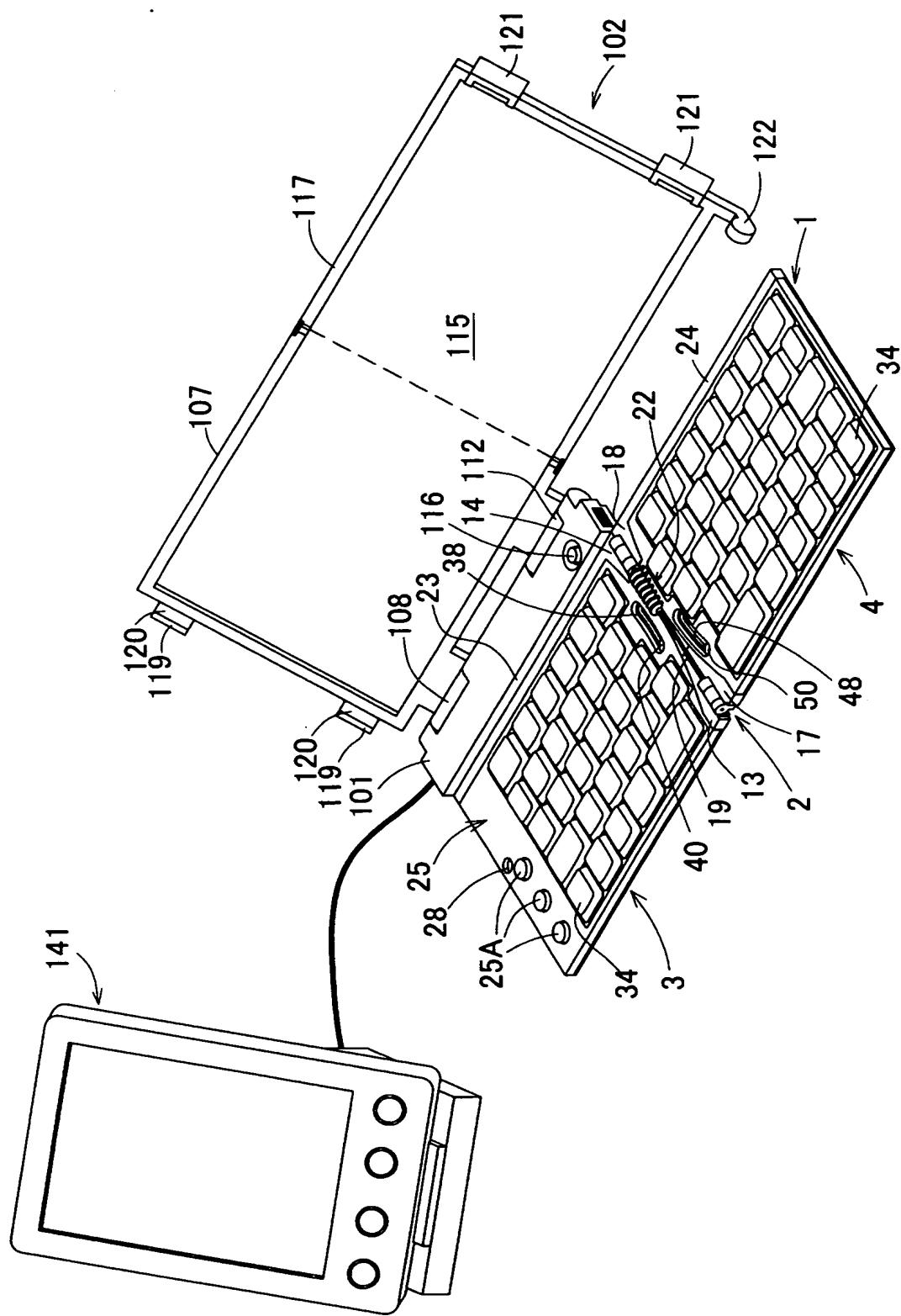
【図10】



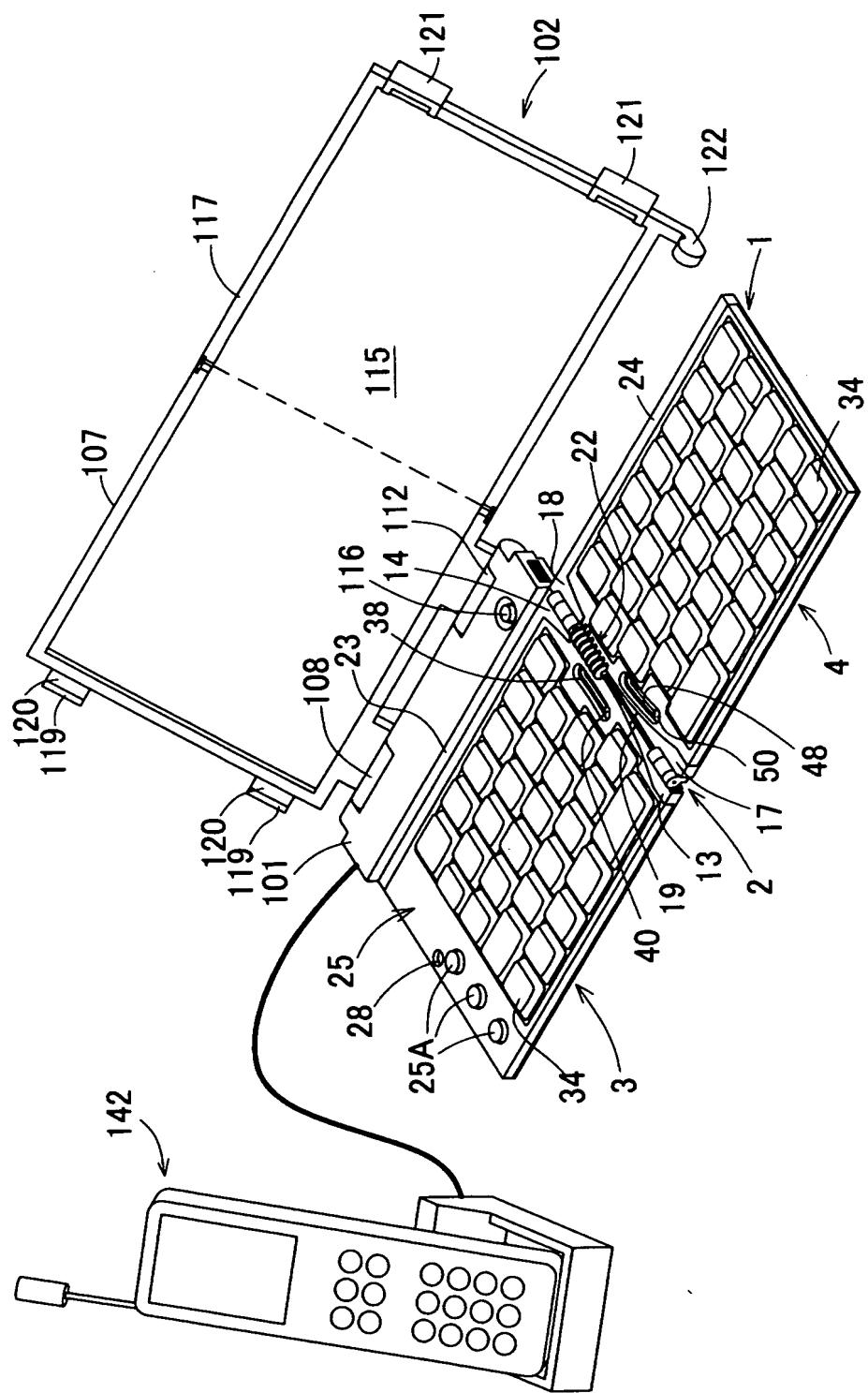
【図 11】



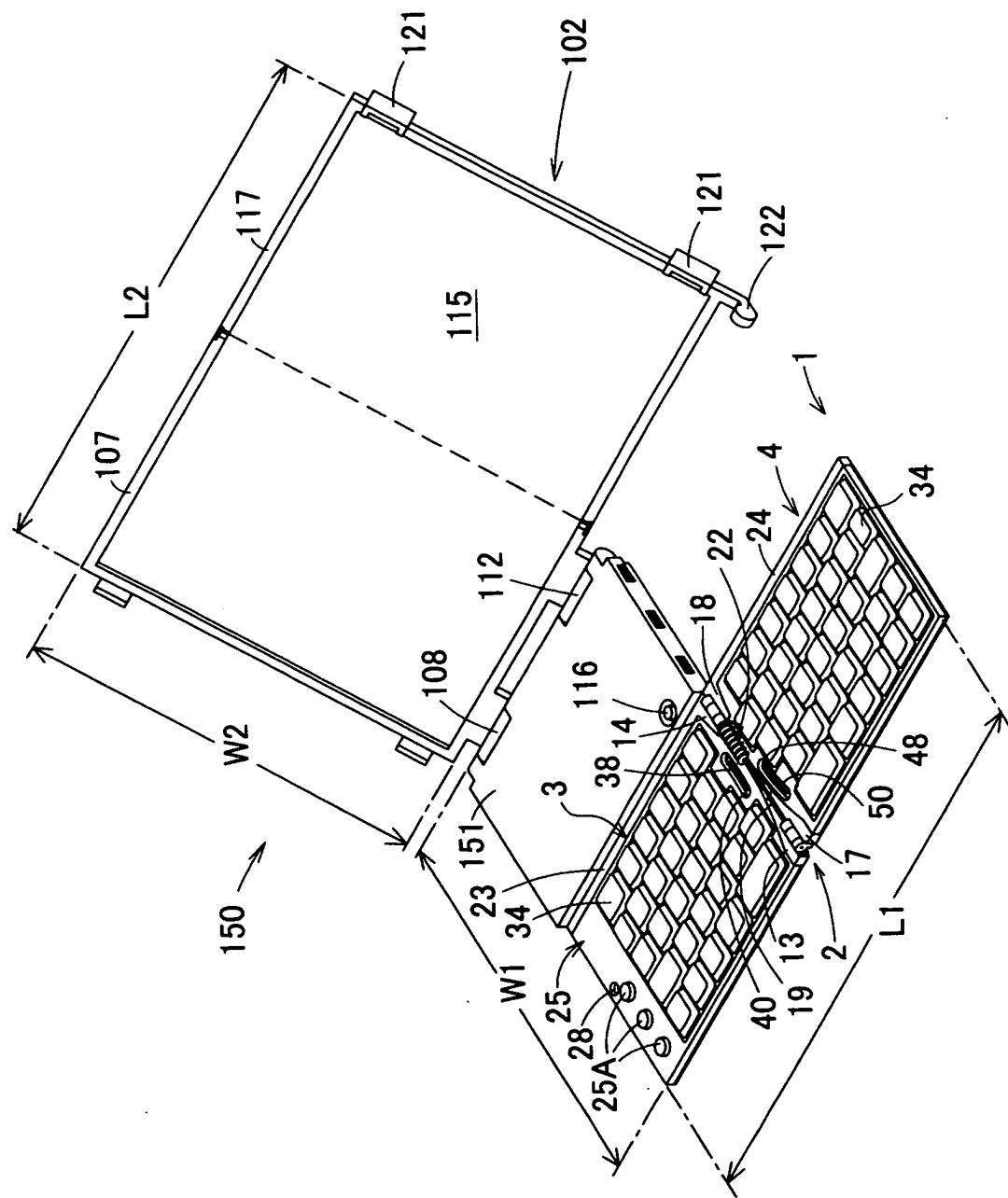
【図12】



【図13】



【図14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 キーボード及びディスプレイの双方を折畳可能に構成し、ディスプレイをキーボードの折畳状態に対応して折り畳み可能とすることにより、携帯時にはディスプレイを備えた入力装置やパーソナルコンピュータの携帯性を格段に向上することが可能であるとともに、使用時にはデスクトップ型の入力装置やパーソナルコンピュータと同等の良好な操作性を実現することが可能な入力装置及びパーソナルコンピュータを提供する。

【解決手段】 回動連結部2を介して折り畳み可能なキーボード1を構成する第1キーボードユニット3の一側に回動可能に取り付けられた可撓性のフレキシブルディスプレイ102が、キーボード1の使用時に第1及び第2キーボードユニット3、4が水平状態にされた際ににおけるキーボード1の長さ「L1」に略等しい長さの表示部115を有し、また、キーボード1の非使用時にその可撓性に基づき第1及び第2キーボードユニット3、4が重ね合わされた際ににおけるキーボードの長さ「L2」に略等しい長さに折り畳まれるように構成する。

【選択図】 図2

特願 2002-270650

出願人履歴情報

識別番号 [000005267]

1. 変更年月日 1990年11月 5日

[変更理由] 住所変更

住所 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号
氏名 ブラザー工業株式会社